京城日報

十三日夕刊

定價 一部金二錢五厘 一ヶ月金五拾錢
廣告料
發行兼編輯人 奧田直毅
印刷人 小川三之介
發行所 京城太平通一丁目 合資會社 京城日報社
電話 四五番 二一一番 三四番 二六六番 振替貯金口座京城三〇〇番

◎段政府の對南方策 平和的解決の途を採らんとす

北方政府の基礎漸次鞏固となり且つ宣戰と同時に大借款其の他の軍備借款成立の希望ありしに反し南方民黨の勢力振はず兵力財力共に北方の比に非ず目下の所到底反抗の力なきにより政府に於ても武力にて解決せるを變更し對獨宣戰の際內訌等を釀すの愚を避け出來得る限り平和的解決を採る方針にて南方と交渉すべし馮國璋氏入京以來殊に此の說有力となり國務會議にては既に之を議決したり(北京特電)

◎駐支獨軍司令官逃走

天津獨軍司令官ハンネツケンは上海に逃走せるが如し是より先北京政府は宣戰と共に同人を拘束する都合にて其の旨を天津警察長に通知せりと(北京特電)

◎張勳家族の天津入

徐州に蟄り居りし張勳氏の家族は多數の荷物と共に十日夜天津に著し日租界に入れり(天津特電)

◎伊國大使著任

本邦駐箚伊太利國特命全權大使クサニ、コンフアロニエリ侯は十三日午後四時橫濱著港の春陽丸にて著任せり(東京特電)

◎南北支那洪水

▲天津附近 堤防崩壞の爲め天津の北西方面は一面の洪水となり此の上降雨續かば日本租界は危險の狀態に陷らん之れが爲め十二日天津警察長は船を出し我が官憲も水害視察に向へり(天津特電)

▲楊子江氾濫 楊子江の上流及び湖南の湘江、沅江沿岸何れも氾濫し殊に岳州附近は楊子江と洞庭湖と通じて水流の差別見わかず湖南にては五十年來の出水にして米作は半減すべしと(漢口特電)

◎滿鐵線一部不通 復舊期如何

洪水の爲め大楡樹、蔡家間、昌圖、鐵嶺間の橋梁、堤防、線路各所破壞し十日まで列車不通なりしが漸く十三日より徒步連絡によりて通ずることを得たり今回の損害は滿鐵會社創立以來未曾有の事にして十四日夜には復舊工事成り汽車開通の見込みなるも十三日朝來大雨闢しきを以て果して豫定の如く十四日夜開通するや否や目下の處不明なり(長春特電)

◎持地長官歸鮮

遞信局長官持地六三郎氏は十三日朝入港の新羅丸にて釜山著午前十時半發列車にて歸任の途に就けり(釜山特電)

◎鳥山法院長通過

平壤覆審法院長鳥山虎也太氏は十三日朝來釜同夜出港の新羅丸にて內地へ向ふ(釜山特電)

◎平北長官歸鮮

平安北道長官藤川利三郎氏は十三日朝入港の新羅丸にて釜山に上陸午前十時半發の列車にて歸任の途に就けり(釜山特電)

◎中島憲兵大佐

全羅北道警務部長憲兵大佐中島矩貞氏は十三日朝釜山發櫻丸にて內地へ(釜山特電)

◎海軍補充決定 補助艦速製主義

既報海軍補充案に關し當局は過般來種々調査中なりしが今回愈々省議決定したるを以て加藤海相より來二十日を以て閣議に提案する事となり而して其內容は八八、八六若くは八四速成案にもあらず現下我國の建艦能力と建艦材料との關係に鑑みたる結果根本問題を避けて單に應急の一時的補充に過ぎず從つて小艦主義に則り巡洋艦、潜航艇、驅逐艦等の補助艦の建設を遂行するにあり其經費は約三千萬圓にして四五年の繼續事業となるべく更に豫定內地製艦主義に出づべきを以て或は一二の私立造船會社に對して或る方法を講ずるに至るべしと(東京特電)

◎露國輸入禁止令

露國政府は露曆六月二十九日附閣令として同七月十八日の官報を以て左記の如く外國貨物輸入禁止令を發表し同時に同令第四條により本令を適用せざる貨物品目表を發布せる趣在莫斯科能勢總領事代理より外務省に電報ありたり

第一條 外國貨物は外國品輸與本部又は商工務省の特別許可證を有するものに限り輸入を許可す
第二條 前記許可證を有せざる貨物は總て沒收す
第三條 沒收貨物は陸軍大臣の處分に委託す
第四條 商工務大臣は主務大臣と協議の上本令を適用せざる貨物品目表に關聯するの權限を有す
第五條 本令は各稅關に於て本令通知の電報を受理せる日より施行す但し本令發布後四週間內に船積證券送狀及小包送狀に依り發送せられたる貨物に對しては之を適用せず

尙輸入許可品目中には(第一)素麵、金マカロニー、總ての新材、種子類、金錢子、線狀又は板狀の金其他第二千九百十七年四月廿九日附農商務省令に基く極東輸入許可の砂糖第三類稅輸入を許可せる芬蘭より一時滯在者の歸還する際攜帶する家具旅客の手荷物をも掲げたり(東京特電)

◎府縣官吏增給

內務省は物價騰貴に依る下級官吏救濟の目的を以て東京府を始め各府縣の官吏にして月俸三十圓未滿のもの千五百名に對し俸給留保額より二萬五千圓を支出し各府縣に三百圓乃至千二百圓を分配し增俸又は賞與に充當す可き旨九日附各地方長官に通牒を發せり(東京特信)

◎南方謀略如何

段政府は已に對獨宣戰案を可決し大借款又近く成立せんとするより政局の前途に對し樂觀說を懷くもの多きも西南及び湖南方面の近況を觀察する時は陰雲暗澹として前途轉た寒心に堪へざるものあり即ち第一に四川方面に於て雲貴軍隊は省城に逼迫し唐督軍の本營は已に川境に入れるに對し段氏は吳光新氏をして大兵を督し入川せしめたれば其接戰の曉に於ける勝敗は容易に判定す可からざるものあり第二は廣東方面にて陳督軍は獨立に決して民黨に附和せざる可きを信ぜられたるも近日議員の入廣する者甚だ多く且つ獨立軍艦の入廣するや陳氏は之れを歡迎するなど其態度の一變せるは顯然たる事實にて同人は決して中央政府に服從する者に非らず第三は湖南方面にて土民は一般に北洋系なる新督軍傅良佐氏の就任に反對し已に廣西軍隊湖南侵入の報あれば傅督軍は如何にして之を擊退せんとするかに在り要するに孫仲山氏の南方分立計畫は著々進行中にあれば西南六省が聯合獨立するに於ては玆に南北は分立し南方政府は黎總統復任舊國會招集を旗幟として北伐を試むべく之に對する北方政府は唯だ武力對峙の外なかる可きを以て此際四川問題の解決如何は時局の前途に大關係を生ずるや言を俟たず蓋し孫仲山等の意は四川を攻略して長江上流より湖南を壓迫し更に中原に臨んで北方政府を倒壞せんとするに在れば若し段氏の謀略宜しきを得て南方勢力が四川より一掃さるゝに至らば湖南獨り動かんと欲するも能はず孫仲山氏等が最後の對北策とする江南半壁の獨立政府支持案も終に空想に終るに至るべし(北京)

◎總督邸送別宴

長谷川總督は十四日午後七時より秋山大將、白水中將を官邸に招待送別の宴を張ることゝなれるが軍よりは參謀長、高級參謀、高級副官、師團長、師團副官、師團參謀等出席し總督府側よりは政務總監以下各部長官、官房各局課長、武官、副官、秘書官等陪席す可く主客合計二十九名に達する由なり

◎總督總監出席

長谷川總督、山縣政務總監は釜屋、高橋兩武官、齋藤、大島兩副官、遠藤、神田兩秘書官、藤波通譯官等を隨へ十三日正午より昌德宮に於ける李王殿下御催しの秋山大將白水參謀長の送別宴に出席したり

◎地主委員會

高等土地調査委員會部會は十三日午前九時より總督府第一會議室に開會有賀部長代理統裁の下に土地査定不服申請に關する件を審議し十一時散會したり

◎辭令

十一日附を以て左の通り辭令ありたり

總督府屬兼土地調査局技手 貝田義丸

任總督府臨時土地調査局監査官
敍高等官八等五級俸下賜
總督府裁判所書記 通譯生 全 蔡容默

任總督府裁判所判事
敍高等官八等十二級俸下賜
補光州地方法院判事

◎憲兵將校異動

這回左の通り異動ありたり

朝鮮駐箚憲兵隊分隊長 憲兵中尉 茅野正夫
大邱憲兵隊附を命ず
同 憲兵中尉 酒井周吉
海州憲兵隊附を命ず(以上八月六日附) 憲兵特務曹長 安田宗藏
京城憲兵隊附を命ず 同 大塚佐吉
羅州憲兵隊附を命ず 同 福田虎吉
全州憲兵隊附を命ず 同 中村治左衛門
義州憲兵隊附を命ず 同 竹下宗平
晋州憲兵隊附を命ず(以上八月十日附)

◎昌德宮午餐會

李王殿下には十三日正午より秋山大將、白水中將を主賓とし昌德宮內に於て午餐會を開かれしが當日は長谷川總督、山縣政務總監、軍參謀長、師團長等陪席したり

◎軍參謀長挨拶

新任軍參謀長市川少將及び榮轉せる松井中佐は十三日午前九時總督府を訪ひ長谷川總督、山縣政務總監以下各部長官、局長、課長等に夫れ〲新任及び轉任の挨拶を爲せり

◎宮尾長官動靜

新に關東都督府民政長官に任ぜられたる宮尾舜治氏は赴任の途次十三日朝南大門驛通過の筈なりしも前夜十時大田沃川間に於て貨物列車脫線故障を生じたる爲め同氏の搭乘せる滿鮮急行列車も同所より運轉する能はず同貨物列車の運轉を俟ちて發車することゝなり漸く十三日正午十二時過ぎ南大門驛發車の運となりたれば京城著は十三日午後五時半頃となりたる筈にして著驛と共に下車朝鮮ホテルに投宿すべし

◎鹽澤大佐挨拶

新任京畿道警務部長鹽澤大佐は部員隨伴にて十一日龍山憲兵分隊に赴き十三日午前中は同樣本町鍾路の兩警察署及び京城憲兵分隊に赴きて各隊署員全部を集め著任の挨拶並に訓示ありたり

朝鮮牛と橫斷航路 特派員 中島克己

▲橫斷航路の要件 (朝刊より續く)即ち橫斷航路に使用すべき汽船は生牛の移入のみを目的とする時は春夏秋の三季に於ては五百噸乃至八百噸の小形汽船を使用し得べきも冬季は少くとも千五百噸以上のものに非ざれば安全なりと云ふを得ずして歐洲戰爭勃發以來は畜牛の運賃甚だ多額を要し當業者の苦痛大なるものあらん定期航路開始の運に至らば畜牛の外大豆小豆雜貨等の荷物案外多量なるべく又旅客の乘り込みは世人の豫想よりも以上遙かに多かるべし即ち定期航路開始せられ旅客の吸收をも併せ目的とする場合は使用船は少くとも二千五百噸乃至三千噸以上可成的大形船舶を必要とすべし而して目下移出地に於ける畜牛の市價は未曾有の暴騰を示し內地との差比較的大ならず故に當業者は購買に一層の注意を拂へるものゝ如く而かも移出港附近は飼料の品質不良にして且つ不足なる結果購買後汽船搭載迄の豫託飼料に多額の經費を要し而かも價格却つて劣下する傾向ありと謂ふ

▲鮮牛移出の將來 牛疫は元來支那國境間島方面より傳播せしもの多く元山及び城津より移出するものに在りては之等の危險殆んど無しと斷言するを憚らず而して購買後檢疫終了迄の疾病及び損傷等の缺損は年中を通じて約百分の三乃至五を見積るを適當とすべく(目下移出地の地價暴騰せしと運賃高率なるとを加ふるに需要地として確定せし場所なきとに依り確實なる純益を得る事稍々困難の趣あれども自家使用を目的とする移入業者は內地購買に比し幾分有利ならん然れども將來內地に於て北鮮牛の聲價を確認し價格及び運賃亦平率に復し相當の技術と資本を有するものゝ著實に移入事業を經營せんか相當の利益自ら到る事蓋し難事に非ざるべし要するに著實優良なる資本家の北鮮牛移入事業を經營せんか必ずや有利安全にして橫斷航路開始の機運を促進し互に兩者の受る利便は蓋し大なるものあるべきや必せり

▲牛移入と收支 左に福井縣農業技師の調査に由る移入事業に就き其の收支計算に關する一例を掲げ本業研究者の參考とすべし

(七百噸の汽船を以て二百五十頭を搭載するものとす)

支出之部(現時の市價に準ず)

七、五〇〇圓	牛代金(北牛二五〇頭)
八七五	移出入稅一頭三圓五十錢と見積
一五〇	積込及び陸揚費
一、七五〇	汽船賃(一頭平均七圓)
一、〇五〇	飼料費(一日分十四錢三十日分)
一四〇	牧夫及び人夫賃
三〇〇	噸稅
二〇〇	購買及び賣捌費
二〇〇	組合納金及び仲立人手當
四〇	通信費及び雜費
合計	一一、九三五、〇〇

即ち右一萬一千九百卅五圓を二百五十頭に割當つれば一頭の原價格は四十七圓七十四錢となるれども二百五十頭の內疾病又は負傷丈の缺損を四パーセントと假定し此の頭數十頭を控除し代價を以て毀却するものとせば差引一萬一千七百三十五圓にして即ち二百四十頭の實費價格なり即ち一頭當り四十八圓八十九錢となる前項の計算に因れば原價平均卅圓の畜牛に對し運賃飼料諸雜費及缺損費を合し約十八圓八十九錢を要し原價と共に一頭平均四十八圓八十九錢となるべし然れば斯の如き畜牛は檢疫終了後敦賀に於て果して幾何の價格を以つて賣却し得るや判斷するに四十五圓乃至六十圓位にして一頭平均五圓內外の純益を得る事敢て困難ならず

註 本計算書は目下の如き船腹の大不足及び牛價格の大暴騰の際には全然適用すべきものに非ずして平時に於ける標準を採用したるものなりと

◎朝鮮製絲會社計畫 資本百萬圓、工場は京城附近

絲界の好況は蠶業の發達と相俟つて鮮內に製絲會社の設置を目論見若くは目論見むとするもの少からず、何れも昨今密な協議を進め居れるが就中具體的なるは高野三井物產京城支店長、原田朝鮮郵船會社長、賀田朝鮮皮革會社專務等八名の發起に係る朝鮮製絲株式會社なり同社は資本總額を一百萬圓とし第一期に四分一を拂ひ込み京城若くは其の附近に工場を設置して三百釜の設備により製絲事業を開始せんとするものにして其の株は全部發起人外一二有志の間に於て引き受く可く既に內部の協定成立したれば近く出願の手續を履行し許可次第工場の建設に著手す可し

◎原田社長東上

朝郵原田社長は日本郵船會社取締役會列席の爲め十四日夜行出發東上の筈

◎千葉學事視察團

千葉縣教育會の主催に係る鮮滿學事視察團三十八名一行は十四日午後七時三十分著京、南山町京金旅館に投宿する筈なるが一行は十五、六兩日京城觀察の上十七日午前八時五十三分發仁川に向ふ豫定なり右一行入京を機とし京城千葉縣人會は十六日午後三時朝鮮ホテルに懇親會を開催し同縣人以外の同縣緣故者の參會をも歡迎すべく會費一圓五十錢出席希望者は十四日迄に內務部第二課飯田長十郎氏宛申込むべしと發起人左の如し

御園生卯七、湯澤新一郎、吉野護吉、中村榮助、齋藤友次郎、栗原謙三、佐藤文也、長谷川善一、西山留次郎、木村捷哉、石橋孝平、玉置充顯、杉森勝治郎、高木登之助、加藤右文治、鶴田忠吉、藤田長之助、山田譲、細井貞二郎、岡行榮吉、永井久松、伊藤留五郎、花園亞次郎、篠崎安五郎、高橋源五郎、佐藤堅次、石毛兵次郎

◎憲兵採用試驗

京城憲兵隊に於て豫て募集中なりし憲兵上等兵候補者の應募者は總て三十四名にして之等志願者に對し十三日午前體格檢査を施行したるに全部合格したるを以て引續學科試驗を行ひつゝあり

◎漢江減水狀況

十日來雨以來增水せる漢江は十二日正午頃迄に減水一尺同日夕刻より渡船場附近は著しく減水し十三日朝より各渡船場は交通を開始せるも尙平水よりは十尺の增水を示しつゝあり

◎約手問題解決

既報の如く京城商業會議所にては約束手形の支拂場所を個人となさず銀行を支拂場所となす事に定めんと既に支那商側とも交渉したる所華商總會にても之を快諾したるを以て之れが割引步合其の他の條件につき會議所より銀行集會所へ正式の交渉を開きたる所十三日美濃部銀行集會所總務の名を以て回答ありたり其內容は銀行側も同意せるを以て(一)約束手形の支拂は事情已むを得ざる場合の外取引銀行を支拂場所とせざるものには取引を拒絕する事(二)支拂場所は取引銀行を指定し其場合割引步を遞減することの二件を通知し來りたるが右割引の程度に關しては各銀行とも夫々事情を異にせるを以て或は一厘乃至二厘又は三厘となす銀行もあるべく割引步合は凡て各銀行の任意となす由因みに是れが施行は十三日會議所より夫々通牒し即時之を實行すべしといふ

◎鹽澤大佐歡迎會

子爵趙重應、趙鎭泰、白完爀、韓相龍、李恒九、芮宗錫、翟岡諸氏の發起にて十三日午後六時三十分より新任京畿道警務部長鹽澤憲兵大佐の歡迎會を明月館に開催す

◎電氣敷設調査

朝鮮瓦斯電氣會社の出願に係る釜山市街電車軌道線延長敷設に關し十一日總督府より鐵道局技手寺島金司、釜山府より多賀技手、藤田技手及び同社員立會の上線路設計圖に就き實地調査を行ひたり(釜山)

◎照島判事著任

釜山地方法院より大邱地方法院に轉任したる判事照島榮治氏は十一日午前十時三十分發列車にて赴任せり(釜山)

◎庵原水產技師消息

過日來慶尙北道盈德方面を視察中なりし總督府水產課技師庵原文一氏は十二日歸釜一兩日滯在の上歸任の筈(釜山)

◎憲兵分隊長異動

慶北金泉憲兵分隊長憲兵大尉出上良雄氏は今回久留米憲兵分隊長として轉任を命ぜられ近々赴任の筈(大邱)

◎市區改正實況調査

總督府土木事務囑託佐藤浩一氏は內地及び滿洲朝鮮に於ける市區改正の實況調査の爲め出張中なりしが十日釜山に來り調査を終し同日夜出港連絡船にて下の關に向へり(釜山)

◎奉天だより

▲奉省獨人取締 北京政府は愈々對獨宣戰の廟議を決定し近く之れを宣布する迄に運べるより張督軍は段總理の軍命を奉じ獨人の取締及び電報檢閱を十一日より再開せり猶張督軍は未宣戰以前に於ける施設として獨人關係者の考査、防鎮を要する海灣の調査、選拔編制す可き軍隊の檢査等に實行上の準備に著手せり

▲四鄭運輸課開設 四鄭鐵道建設工事は既報の如く進捗し過般の遼河氾濫に依る三江口鐵橋工事の損害も實地調査の結果は案外輕少にて從つて同鐵道全線工事は來る十月一杯を以て竣成の見込なるを以て同鐵路局に於ては近く運輸課を開設し運輸に關する諸般の準備に著手する事となり豫て同局事務に關し滿鐵を代表して北京に出張中なりし竹中政一氏及び同鐵路局長廣川氏外一行七名の同局幹部及び技術員は十日夜北京より奉天に著し十一日朝大連に赴きたるが一行は運輸課開設に關し滿鐵本社と諸般の打合せを爲し滿鐵より列車一部の借受等に就きて商議を取極めたる上現在滿鐵に於ける技術的方面の施設を精細に視察す可く沙河口工場を始め旅順工科學堂、撫順炭坑等の研究を終らば直に四平街に出張する筈同鐵道は遲くも十一月末迄には列車の試運轉を行ふに至る可しと

▲兌換と大洋紙幣 奉天中國銀行にては來る十六日頃現職員の大洋兌換に應ずる準備として課員徐春周氏を北京中國銀行に派遣し打合中なりしが徐氏は十一日巨額の大洋紙幣を攜帶して歸行したり(十一日發)

大邱

▲南鮮名產安東麻 品質の良好なると生產の多額なる點に於て古來南鮮の名產と稱せられたる慶北安東產麻布は近時大阪、東京、高知、奈良等の府縣より多くの注文を見るの外內地行土產物として賣行極めて良好なり

▲大邱に倉庫業 北若木彌山十組出張所主任奧野次郎氏は今回大邱に來住し大邱驛出張所側に於て倉庫業を開始すべく目下著々工事を急ぎ居れるが竣業の曉は年中無休にて各荷主の便宜を圖るべしと

▲郡廳增築計畫 慶北道に於ては各郡共事務の繁忙に伴ひ廳舍の狹隘を告げつゝある模樣なれば今後漸次に之れが增築又は新築をなすべく目下それ〲調査設計中なりと

▲製紙狀況視察 南滿洲製紙會社鐵嶺工場支配人惡星鐵氏は慶北地方に於ける製紙狀況視察の爲め十日來邱直ちに道廳に到り道當局に就き製紙獎勵方針を聽くところあり更に類慶郡に陳列しある在來の貨物紙及び改良貨物紙其他を調査したりと

▲慶北內地人數 慶尙北道管內に於ける內地人戶口數に就き慶北警務部の調査せるを見るに七千一百七十五戶二萬五千六百二十人に達し內男一萬三千五百九十八人女一萬二千二十二人を示せり

人事消息

▲藤川利三郎氏(平北道長官) 十三日夜內地より入京浦尾旅館へ投宿の筈
▲中井喜太郎氏 十三日元山へ
▲坂東義雄氏(總督府衛生課長) 十三日朝元山へ
▲國分象三郎氏(學務局長) 十二日午後水原より歸京
▲石塚英藏氏(東拓總裁) 十二日元山より歸京

三松庵口占 鐵城 熊谷直亮

功名老去世情空。晴好雨奇閑適窮。尤是黃塵無到處。三松庵裏臥清風。

磯川僑居。遠隔市塵。庭松三株。翠色欲滴。故及

秋山白水兩將軍を送る 蟹州

西瓜切つて通天閣の別れ哉
漢水秋近う双鶴先づ立ちぬ

長白山彙を跋渉して（一）

▽北の滿洲側から這入りこむ△

◇高山植物成金◇無數の流れ◇蛇に驚く◇

私が滿洲の西間島から長白山彙の千古の密林にわけ入つたのは去る六月も末つ方のことであつた。私は別に

◆白頭山に登つて海拔八千八百尺の天風に長嘯する程の豪傑氣もなく、それとも絶巓の龍王潭に浸つて五色の魚を漁るほどの風流氣もなかつた。私は一の高山植物中の隠逸植物を探し出して近頃大流行の成金になる心算であつた。『高山植物成金』ではチト語呂が悪いがしかし私の目的は確かに遂行されたので此の意識から云へば僥倖は確かに

◆努力する人に向つて其細富の御褒美を下さる。してみれば苟も拙者の如く『高山植物成金』にならうと思はん程の衆生は、假令財産は無一文たりとも必ず山に登るべきものなりあなかしこ〳〵。私が白頭山麓にたどりついた道は西間島の安圖といふ街からであつた。私にとつては白頭山なんぞはどうでもよかつたが、それでも其の

◆山麓の密林や深い幽谷はせひとも見逃し難いところであつた――それは前申す通り『高山植物成金』になりたいからであつた。チヨツト斷つておくが私は元來野生の男である。頭日獨逸のアドルス、ユスト君などが今更らしく『天然生活』などと在仰るやうだがかく申す拙などは夙くのむかしから赤裸のありがたさも、紫外線のやけつき工合も、まつた

◆露營の快さも心得てゐる　それで、いつも山に這入ると死んだおふくろにでも逢ふやうな氣になるが實は這回といふ這回、白頭山の密林中だけはチトおふくろ氣分が利き過ぎたのであつた。私が通つた谿谷はどの谷もどの谷も水と岩と樹であつた。水を岩とがあればどうしても灘を流れがなければならぬ。どの谷も〳〵氷のやうな冷たい流れ、それがまた數へ切れぬ程を箆棒に澤山で何れも

◆北へ北へと流れてゐる、中には白頭山の龍王潭から鴨緑江、圖們江行きの兄弟分と別れて來たのもあらう。子、川上に在つてアイスクリームの代りに溪流を掬むで見ると逝く者はかくの如きか遙かに松花江をなつて吉林、哈爾賓から黒龍江に出で末はオホック海に注ぐ此の流れは今し私のほてつた足を洗つてゐる。私は

◆嗜な浪花節をうたりながら『大高源吾は橋の上……』がいよ〳〵佳境に入りかけてゐると、俄然踏いたの踏かないのつて危ふく千川上に在つて膽をつぶすところであつた。それは今まで岩とばかり思つたところが動くともなく靜かに動いて端は大きな蛇の頭になつてゐる。凝視すれば樹の葉洩る日光の斑の彩を爲したは、美しい蛇の斑紋であつた蛇は二間半もあつたかと思はれたが私は悲鳴をあげて逃げ出した。蛇の前には成金も高山植物も拋り棄てながら（山右工門）

故木戸侯葬儀

白帛御下賜

故木戸孝正侯葬儀は十三日午前十時告別式赤阪新阪町の同邸に執行し文武百官數百名の燒香禮拜あり午後二時出棺、染井墓地に埋葬したるが提□き退りにては勅使として河鰭侍從を同邸に御差遣あらせられ幣帛として白帛二疋を下賜せられたり（東京特電）

酒に濁れて飄々と

▽奇體な露人　木葉のやうな小舟に乘つて風に任せて浦鹽から清津へ

▽清津へ着くと百留紙幣を投出して

▽苗助買入れ　朝から酔拂つて呂律も廻らぬ上に機嫌は扨てもく

數日前の午後七時頃雄基沖から清津港の防波堤に入港して來た二間半餘りのヨツト型の小舟があつたその舟には毛色眼色の變つた一外國人が乘り込んで居つたので

△大騒ぎとなり警察で調べた結果それは露國人で浦鹽から來たと云ふ事が判明したが件んの男は年齢四十許りで名はストロートと云ひ露語の外に英語をもよく解し同人の語る所に依ると別に目的もなく只だ徒然の餘り清津に遊びに出て來たもので之れから直に浦鹽に引返すと云ひ又は亞米利加へ行くなどとも言つて居た

▲船には水樽堤爐などの炊事道具からパン、バター、コーヒなどの食料品も積込み船中には寝室と物置場があり護身用の二挺の連發銃などがあつた浦鹽を出帆してから清津に著くまで十四日間を費し沿岸到る所に寄港して來たが地名などは知らぬと言ひ亦同人は

△浦鹽で居つたものらしく當地に入港するや早速所持の百留紙幣を二十五圓に交換して其金でウヰスキーを購入し餘程酒に渇へて頻りに呷つて居つたが翌朝も朝から酩酊して呂律もよく廻らぬ様であつた同人身許は確なるもの丶如く同人が眞面目な顔で寫した寫眞を添へた

△旅券を所持して居つたが死に角物好にも扁舟に乘り一帆に任して清津まで遊びに來るとは冒險好きの外國人の事ではあるが呑氣千萬な話しではある（清津特信）

督軍謝罪

支那兵暴行問題一先づ解決

去る四日張督軍が赤塚總領事を訪問せる際、警戒の任に當れる兵士が吾通信夫及び警察官に傷害若しくは侮辱を加へたる件に就きては領事館より交渉する所ありしが張督軍は兵士の行動を頗る遺憾とし參謀長馬凱をして謝罪的書狀を持たしめて七日午前日本總領事館を訪はしめ、親しく張督軍の遺憾とせる旨を述べ且つ一切の治療費を支給し本件を發生せしめたる兵士を取調べの上相當處分をなすべく尚ほ將來重ねて此種の事件を發生せしめざる事とし以て益々睦誼を致くせん事を期して辭し去りたれば之にて該問題は解決されたり（奉天）

貨車脱線

松若沃川間にて

十三日午前六時頃京釜線沃川驛に到著すべき南行の貨物列車は松若沃川間の鐵橋附近にて脱線せし爲め釜山より北行列車は沃川驛に立往生し目下復舊工事中なるが開通までの時間不明なりと

急行列車七時間延著す

十三日午前八時五十分南大門著の筈なる釜山發安東縣行き急行列車は途中沃川驛にて貨車脱線復舊工事の爲め約七時間遲延し午後一時□分南大門驛に到著せり

漣川郡廳庶務主任溺死

同地方洪水の爲

京畿道漣川郡廳庶務主任田村鐵太郎氏は十一日午前四時出水の爲め溺死せり

自轉車と少女

京城杏村洞精米所の事務員李炳奎(二)は十二日午後六時半頃橋南洞四十七番地先きを自轉車にて疾走中同洞黄雲權方の姿第(七)を轢き倒し片脚を骨折せしめたる騒ぎに被害者を光化門通り戸川病院に連れ行き應急手當を施せり

滿鮮急行四十一時間遲延

十三日午前漸く釜山著

定日金曜日京城通過釜山に向ふ可き前週の滿鮮急行列車は京義線破壞のため新義州に待合せたると京釜線不通のため大田に待合せたるため四十一時間餘の遲延を生む十三日午前〇時三十分釜山驛に著せり本列車には多數外國人乘込みあり線路破壞のため長時間遲延せるにあらざるなきかを懸念せるが稻垣工務課長以下保線從事員必死の努力により急速開通を見たる爲皆感謝の辭を述べ居たり

女子技藝學校の割烹講習

講師は馬場割烹學院主

南大門京城女子技藝學校にては夏期講習會として職員協議の上、帝國割烹女學院主馬場秀吉氏を講師に聘し十三日校内にて割烹講習會を開きしが講習生は同校生徒及び有志婦人二十餘名にして講習の種類は干物料理野菜料理者及び玉子料理菓子製法其他凡て夏向料理二十餘種の調理あり猪籠軍なる衛生葉魚の雪中焼淺草雪吸物、鯛の摺り流し吸物等珍らしきものもあり講習生は持參の布巾庖丁等を持つて講師の指圖に隨ひて割烹し講職は一々手帳に記し居れり

割烹講習＝女子技藝學校にて

沃川全滅

慘憺たる豪雨被害　鮮人三名の溺死

忠南沃川地方は十一日午前八時頃より豪雨の爲め大洪水あり各河川の増水著しく危險甚だしきより沃川憲兵隊、消防隊全部を

▲召集警戒に任じつつありしが午前十一時頃憲兵隊後方の堤防缺潰したるよりこゝに沃川一帯は海と化し日本人部落十二三戸押流され其他半倒壞三四戸ありたり水は沃川停車場及び附近鐵道官舍を浸し

▲全部浸水したるより避難民は一時に停車場に向つて蝟集し來り其混亂名狀す可からず鮮人三名溺死せり三百里は約二十戸の小部落なるが之又全部浸水し二名の溺死者を出せり沃川は全滅の有様なり（大田電話）

夜間斷水は依然繼續す

豪雨と京城水道

京城水道は今回の豪雨に關しては何等の被害なし而して豪雨以來の給水量狀況を聞くに九日四十五萬五千立方尺十日四十一萬九千立方尺を示せるより試驗的に十日十一日の兩日の如きは五十四萬七千立方尺といふ破格なる給水量を示し昨十二日亦四十六萬九千立方尺を示するに在るの狀態なれば當分午後八時より翌朝五時迄の夜間給水停止を繼續せざる可らずと

讀者文藝（一題に付五十句迄投稿の事）

▲物は付「助かるものは」

▲始終　大彌村　秋郷生

▲死刑囚に恩赦　京城　春坊

▲地獄で佛　京城　吞舟　和尚

▲引越に手傳　京城　松風生

▲負け戰に援兵　京城　宮の里

溝中に突落す

咸南三水郡新興面銀山里金弘默(三八)は大正四年十一月七日李洛鉉と共に黄海道新溪郡栗面狂市里李連濬方に立越したる際同里の蔡應三が洛鉉を惡罵したるを怒り應三と口論の末同人を傍の溝中に突き倒し腦震盪を起して遂に死亡せしめたるより此程咸興地方法院にて懲役二年の判決を受けしを不服とし京城覆審法院に控訴申立てたり

水に溺れた時

何して救ふか―2―

土地調査局　石黒六郎氏談

◇溺れた人を救助した適例は先日釜山の南濱で貸船業の妻君が網を擲らしてである、妻君より一足前へ行つた人は思慮なく溺れた人を助けんとして自分も共に溺れたのであるが貸船屋の妻君は溺れた人の近くまで泳いで行き巧みに綱を投げつけて二人共曳きあげたのである。これは洵に立派な救助法といはねばならぬ

◆さて網も竹も何一つない時は何うすればよいか其の時は前記の如く溺れた人が充分水を飲むで前後不覺になるまで監視して居なければならぬ而して弱つた時身體を捕へて曳きあげるのである、若し帶か褌があれば之れを投げていきあげるもよい

◆しかし此の場合注意すべきは溺れた人が知られぬ間に帶をたぐりつゝ泳ぐ人に抱きづくことである溺れた當人にとつては何分にも水中の苦しさに辛抱能きず輕い弾などがたよりになられと思ふとだん〳〵帶を手繰りつゝ救助人の後ろから抱きつくのである、それで愚図時にはよく泳ぎつゝ後方を注意しなければならぬ

◆陸にあげてからは矢張り救助を附近に人が集つて居れば先づ第一に醫者に走らせ第二溺れた人の水を吐かすことが肝要である、よく海岸の漁師などは溺死者を逆にして振ることがあるがこれは大禁物、助かる人も殺してしまふことがある

◆先づ照りついた暑い砂に横臥させて傍で火を焚いて暖めるのである、附近に材木の丸太か石があれば其の上に伏せさせて後方から傍腹をしぼるがよい、また材木がなければ人間を四ツ這ひにさせて溺死者をその上に横たへるのもよい

◆吐かせてもまだ蘇生せぬ者は人工呼吸を施す、これは決して急がず氣永にやつて自分の呼吸と同じ速度で腹部を兩手で押したり引いたりするのである、西洋では二時間の後ち吹きかへした例もあるから急いではならぬ蘇生は必ず吸氣からはじめるからその時腹部を押して呼氣にかけてはならぬ、蘇生したら暖かくして寝かせばよし、但し肛門の開いた場合は多く見込がない、もし人工呼吸にかゝつた後に開いた場合は手拭でもハンカチでもさし込むだ後方から膝で押へ氣の洩れぬやうにしなければならぬ（終り）

●鳥致院赤痢流行

鳥致院地方の出水に伴ひ赤痢病患者を發生し鮮人兩三名内地人側二名を出したるが頃日來恰も天候梅……

●連絡船上陸客　八月十一日

午前九時釜山入港新羅丸一二等客……は大庭正人　花田さと　守山千助　同龜助……太郎　松浦……木仙吉……北村……

課題募集規定

●募集規程　▲用紙は端書又は同形の洋紙一枚毎に紙上の雅號又は姓名の外に住所氏名明記……

天氣　くもり

曇り小雨

商況

債券現物特電（十三日東京）

七九、〇〇　一四七、五〇

公債直取引（東京特電）

十三日東京　八八、五〇　八二、四〇

深川在米特電

十三日深川在米　一六、四五　一三、四〇　一四、六〇　一五、二五

東京期米特電

十三日前場　八月限　三二、四〇　三二、四二　三三、六八

大阪株式

十一日前場　寄付

銘柄	値
宇治川水電	三〇〇、〇〇
京阪電鐵	三〇〇、〇〇
東洋紡績	三〇〇、〇〇
合同紡績	三〇〇、〇〇
鐘淵紡績	三〇〇、〇〇
同上新株	三〇〇、〇〇
東洋捕鯨	三〇〇、〇〇
大阪商船	三〇〇、〇〇
日本郵船	三〇〇、〇〇
同上新株	三〇〇、〇〇
堂島米穀	三〇〇、〇〇
東京株式	三〇〇、〇〇
東京新株	三〇〇、〇〇
大阪株式	三〇〇、〇〇
大阪新株	三〇〇、〇〇

大阪三品特電

十三日後場　八月限　四二、八〇　九月限　十月限　十一月限　十二月限　一月限　四四〇、六〇

大阪期米特電

下關期米特電

十三日前場　三二、二七　三二、八八　三二、八八　三二、九六

雜報

●銀四十二片餘　日本銀入電倫敦銀塊は四十二片十六分の一に達したりと

●綿糸布反落　綿糸布も休日明けの今日は反落、先限四百四十圓六十錢と休日前に比し約十四圓方の安値

●入電の現物十五圓方九圓安の三品綿布先物十二圓七十錢と之又安値あり

●鐵材稍々亂調　內地市場の到着前後相場ながら唱値一八の鐵四分二十五圓

●亞鉛引板又新値

●下關相場

●雜鑛稍々引緩む　安質母尼は昨今現物輸出は皆無にして先物契約に止り内地向は夏枯れ時にて大した需要もなく市況活氣なく一圓方の低落を示したり併し生産は減退し居れるを以て先行き輸出の加はるに於て再び頭聲を挽回するに至らん

●亞鉛は原鑛の支那より引續き輸入ある上内地の生産増加し輸出歩々しからず相場を維持し現鉛は本國市場の手辛くも現物の到着ありて

●砂糖入荷す　六百俵許り廻著

●赤糖は全然品切れの爲め一般需要に應じ難く

●十錢方下　一般强硬

●製瓦近況　建築界の需用乏しきにより過不足なく

更に一層の斯高値

六十錢許りの割高

毛布類の拂底高

仕入れ不可能

去年の四五割高

綿毛布

箱六圓三十錢騰貴

燐寸續騰　阪地値一

四十六圓以上

毛斯又た高し

小賣値を尺三十九錢と定め　不日復た引上

乃至三十錢方騰貴　更に二十錢

鉱力板　百三圓乃至百五圓

市場雰聞

▲一變强硬

▲賣り過ぎ反動

▲反動來乎

京城正米

南大門の廻穀

釜山穀物（十一日）

生魚市場

仁川期米

▲十三日前場（强硬）

天候晴　大阪十一錢安の入電　先十九圓十一錢と　二錢と一錢安に寄付　三錢丁度と上伸

▲大阪八節九十六錢と高移

▲二錢と押し混戰　裡に强硬の成行

▲前場の高原因

▲結局俵括り談の成立

▲取引正米に釜山筋の受

▲大下輔を賣り居

▲中限依然强硬

▲大阪より意外

▲七丁の大下輔に四十

仁川米豆取引所仲買人　⊕仲買店

仁川米豆取引所　十三日の十月限

節	値
寄付	十九圓十三
止め	十九圓三十
高値	十九圓十三
安値	十九圓二十
出來	四萬四百石

	賣買取組高
八月限	
九月限	
十月限	
十一月限	
日後場	

仁川米豆取引所仲買人　⊕仲買店　電話

…患者を發し遂に下痢症患者發生…斯く拘れれば當局にては患家に對する消毒の萬全を期すると共に他方一般市民各自の注意を喚起し專ら豫防に努めつゝあり(鳥致院)

◎映畫がよければ兒童の活動見物も

敢て禁じ得ぬ

赤司普通學務局長の意見

活動寫眞は少年男女にとつて禁物である兒童には斷じて見せるもので無いとまで極端に活動寫眞は排斥されてゐるが文部省あたりの意見では一概にこれを

◆惡魔の如く 危險がる譯ではない新聚會に對し赤司普通學務局長はコンナことを云つて居る「吾々教育者の立場から云ても今度の新聚會は先づ〳〵時世に適して居る絶對に子供に活動寫眞を見せるなと云ふのではない、慘虐なもの、盜心を助長さすもの

◆極端な冒險 思想、男女の醜關係などを映したものはどうしても子供の教育上百害有つて一利ないから之を避けたいと云ふ意嚮に過ぎないそれに日本の兒童は兎角物を眞似たがる癖があつて困る、活動で見てからジゴマごつこに夢中になつたりナイフで人を傷つけたと云ふやうな

◆惡例も多く 耳にするが之が反對に智育上工場内の機械組立てとか植物果實の栽培、或は阿片の害毒などを映したるものの等は直接子供の心理狀態に善い影響を與へるから此方でも極力奬勵したい位である又活動を見ると云ふ事が抑も子供に餘り善くないと排斥する點は一體に短い時間に成るべく多くの場面を觀せやうとするのだから大人ですらもひどく精神を疲勞させる況して頭腦の固まらない腦質の脆弱な子供には大毒である事之亦論を俟たない此意味からしても殿舍乙種フイルムでも長尺物を

◆時間の制限 なしに觀せることは甚だよくないと思ふ、又今度の新聚會は餘り急な改革だと不平を洩す向も大分ある樣だが之は元々我國へ活動寫眞が這入り込んだ頭に全く無干渉主義を採つた餘弊である當時外國では取締檢閲が最も嚴しい時だつたので先方の檢閲に刎ねられた

◆甚しい映畫 がドン〳〵此方へ輸入され唯だ一途に活動寫眞そのものが面白いと云ふ譯で映畫の善惡など全く眼中に置かなかつた此の禍根が長く惰勢となる今日に及んだので當業者の方でも之れ迄に自ら進んで改善する餘裕は充分あつた筈であるが要に警視廳と帝國教育會とが交涉した時分でも當省では彼等興行者の側に

◆便宜を計る 心算で善い映畫は幾らでも持つて來い、利用法を講じて遣るからと云ふ工合に出たが一向に申出が無く益々惡用したがると云ふ風であつた、現に亞米利加などでは小學校の授業にさへ活動寫眞を使つて居るといふ位である、子供に對して善い映畫ならば文部省でも

◆双手を擧て 歡迎する寧ろ夫れを希望して居る位で、差し當り教育博物館が新築されたら子供に結構な理科學的の活動寫眞を公開したいと思つて居る(東京)

◎試驗科目增加で 遙かの尻込

八月一日から實施されたる改正試驗規定

海員の世界的雄飛に備る爲

今回仁川海事出張所で施行された船舶職員試驗の應募者は乙種二等運轉士二名二等機關士三等機關士各二名小型丙種二名合計八名に過ぎなかつた之を從來の三十名乃至五十名に比すれば非常な減少であるが其の理由は八月一日から實施の試驗規定改正の爲め

◆試驗課目が增加したからである其の改正規定◆に依ると從來海員として直接必要なる智識技能にのみ重きを置いて試驗したのであるが海運界の發展は遂ひに世界的の活躍を促し海員は單に直接必要の智識技能のみでは完全に職務を遂行する事が可能なくなつた其處で

◆船舶法規商事實務等を始め普通學及び語學三◆を要ありとして今回實施するに至つたのであるから此れまで多少の自信を持つて受驗した者も遙かの試驗科目增加に躊躇て斯くは多數の尻込みを生じたのであらう然し乍ら今後改正

◆試驗規定に依る及第者は學術に於て常識に於て◆大に向上して居る理であるから海運界の大勢に應じ且つ外國海員に比し遜色を見ざるに至る可く殊に外國航路の衛に當る甲種船舶職員に對しては非常の効果を擧げ得るで有らう例へば歐亂勃發

◆當時本邦船舶内に獨逸公使を便乘させて佛國◆政府に抑留されたるが如き航海中英國軍艦の訊問を受けたるが如き乘客中の印度人を英國官憲に引渡したるが如き皆何れも法規に通せず常識に乏しい結果である我國海員の醜面を曝し國際

◆間の紛議を醸すが如き大事件を未然に防がん◆とするのが改正規定の目的であるから一面から言へば本改正規定は我海運界の一進歩で海員に對する一大革新たらしめる事が出來やうと某氏は語つた(仁川)

◎牛肉が騰つた

値段は昨年の倍

牛肉の値の上つた事は驚く許りである、百目内ロースが三十六錢といふに至つては殆ど昨年の今頃の倍以上である、今ま

▲京城中市 の相場を聞くに其の次が三十錢、二十五錢、二十錢でスープとか煮出用に用るものであるといふ何故こんなに牛肉の値が上つたかといふに、例年農家ではモウ耕牛を賣拂ふ時季でそれに夏枯れには牛肉の需要が尠い季節であるから肉の値段も下らなくつてはならぬのに、何うして反對に高くなつたかといふに是は

▲露國行き 牛肉の需要が殆んど無制限であつて、內地へも朝鮮牛が澤山行くから自然高くなる譯である、夫れ故段々秋も深くなつて、諸肉肥ね李太ころ頃になれば、なる程其の需要が增して來るから此後の冬なんぞはお互ひに高い牛肉を喰べなければならぬであらう

◎公債月賦販賣を種の大詐欺師

京城黄金町三丁目日本公債株式會社朝鮮支部外交員として雇はれゐたる松島重好(三〇)及び同人の手先きとして又雁ひとなり居れる平壤郡後里趙在鉉(三一)の兩名は本年四月より七月末迄黄海道安岳、信川、遂安、平南鎮南浦等を徘徊し公債の月賦販賣に從業中六月四日安岳邑內砰石里村某洙に對し會社の代理店設置の爲め出張し來りたりと詐稱し代理店を營業する者には第一回に年利七分にて現金三千圓を同社より貸附したる上一切の費用をも支給すべしと說き同人が代理店を開業すべしとの意氣込みなるより其の保證金名義にて金九十圓を騙取したるを手初めに同樣手段を以て外三名より二百圓內外を詐取したる後更に會社に送附すべき公債月賦販賣代金を併せ合計一千八圓を詐欺横領したる爲め各警察署に於て兩人の行衛を搜索中松島は安岳分遣所に趙は遂安分隊に於て何れも逮捕され目下取調べ中

◎監獄官舍へ賊

公州荒しの曲者

忠南公州郡反浦面孔岩里生れ住所不定前科二犯金鍾國(二〇)は本年五月三十一日午前三時頃公州旭町木村吳服店へ忍び入り金二十六圓を六月六日午前三時頃又も同家に忍び入り金四十六圓を竊取しその他各所にて竊盜を働きたるのち又七月二十一日中村氏(典獄)方へ忍び入りたるも家人に發見され一物も得ずして逃走し更に同月二十七日木野藤雲氏方へ忍び入り反物及び衣類數點を竊取したる事發覺し此の程公州署の手に捕へられたり(公州)

釋王寺へ(中)

秦瞬星

『鮮人宿年の紀行』午後四時に釋王寺驛に下車す。驛は淋しい田舍の驛に釋王寺驛員の外は誰も人はなく、たゞ驛前に大きな松の木が五六本つくねんと立つてゐるのみである。人力車はないかと驛夫に聞くと、二三臺あるけれども皆寺の方へ往つて了つたとの事、仕方なく擔夫に荷物を擔がせてテク〳〵と寺まで步く事にした。退屈紛れに擔夫と一言二言語を交はしたが、先生何に威すつてか自分の身の上話をし出した彼の話に依ると何でも彼は元山のある素封家の息子で、小供の時分には相當に勉強もして、日本語も少しは喋り、英語も半年ばかり習つた事があつたが都合あつて自分の家を飛び出して方々へ放浪してゐるあひだに憲兵補助員にもなつたり慈善補にもなつた事があるが今は生活に逐はれて擔夫にまで下つたといふ話。察するに放蕩の結果らしい。擔夫の身の上話を聽き流しながら道の遠さも忘れて寺の入口まで來たそこには貧乏つたらしい旅館が四五軒ある。そこから右の方には溫泉があり、その後には關長官と宋子爵の小ジンマリした別莊が梢の間より幽かに見ゆる。二丁ばかり往くと斷俗門といふのがあつて、そこを入ると松の茂みが尚一層濃くなつて、境內一杯に立ち詰つてゐる。そしてその梢からは幾千となき涼しい蟬の聲が一時に鳴き響き、谷からは急流が石を蹴つて恐ろしい勢で流れて來る。實に莊嚴だ。なる程俗を斷つだけの價値は十分にあると思つた。門に入りて少し往くと昇仙橋といつて掛けたばかりの御影石の橋がある。一寸小ザッパリした橋だが、チョイと金齒といふ樣な格で何うも寺內には餘り相應しくない橋である。又名前からも昇仙橋とは、俗を斷つて佛門に入つた者が仙になつて昇るとは隨分矛盾した話である。それより二三丁往くと左の方に小さな石倉の樣なのがあつて、そこには岩の間より搾しい泉が絕間なくコン〳〵と湧いて出る。摑れた杓子が置いてあつたから一杯掬つて飲んで見ると、これには炭酸が含まれてゐる。これは藥水といつて朝鮮人の間には非常に重寶がられてゐる。擔夫にくど〳〵しくその効能を聽かされながらまたテク〳〵と緩勾配を上つて往く。これから寺まで往くにもまだ餘程あるといふ。登岸閣、不二門を通つて愈々本堂に着く。小僧を捕へて住持は何處にゐるかと聞くと、事務所にゐられるといふ。事務所とは少々耳觸りだが後に聞いて見ると、この寺內には學校もあり、又近接の寺院を管轄してゆくには矢張り事務所がなくてはならないそうである。事務所に入つて見ると壁には柱時計だの新聞その他公文の綴が掛つてゐる。床の上にはテーブルに長椅子、背中に仁丹の廣告背負つてゐる椅子も二つばかりある。私は住持の前に自分の名刺に紹介狀を添へて出した。そして暫らく寺に留めて貰ひたいと云つたら朝鮮の寺はどこの寺を問はず、つい近頃まで宿屋を兼ねてゐたものだがこの頃は何にか縁故のある人の外には絕對に留めぬそうである。私は紹介狀の御蔭で一室を與へられて旅裝を解いた。赤い夕陽は斜に後の雪峯山に掛り、入合を告ぐる鐘の音は森の中に響き渡る。

渚の砂

■恐ろしい蛇男● 熊本縣天草郡〇〇村下田與一(一九)は郷家山下寅太の妹ひでか(二二)と關係したのを貨物から叱られ夫婦はひでかに情死を迫つたものでひでかは隔村に逃げたを池宮喜(二八)方に潜伏を務が發見しひでかを殺しに行つた所常寄に叱られたもので此程は常寄に斬りつけた

■執念深い男● 三重縣河藝郡白塚村杉本發吉(四〇)は三年前同村金貸野依次郎(四五)より僅か二十五錢の借金あり此の間津市で出會つた際依次郎が催促した所から喧嘩となり發吉は鬱憤から川玉となつたので大に憤り五日朝依次郎方へ乘り込み大が出て來る所に飛付いて突き殺し更に德次郎が出て來たところで之れを刺し殺し續いて長男格間の末吉を殺したので三人入り亂れ大格鬪の末吉を取押へて警察に引き渡した

■不持な伴夫● 兵庫縣赤穂郡上郡町生れ小原しづ(一〇)は播磨の銀行員柴田敬に嫁した人の子迄ある身で此の間機縁されて同鄕の釜次神戸に立寄り乘り合せた人力車夫(某)町一丁目の石橋竹次(四二)に欺され途中に連れられて口說き落されおまけに同人から借金投げ行李迄持ち逃げに會つた

八月十一日午後十時二十分釜山入港壹岐丸一二等客

二等(五十名)美國人エムエーベー…植田梅三、同義雄、相原ひで、同米子、富田保藏、山口源次郎、和泉忠左衞門、吉原省三、折笠勝秀、齋藤久孝、渡邊秀一、前田孫一、井上助一、村田長洲、同りう、東條義一、仲發、將手洗龍堆、新藤登、松本久馬、松田通明、山口かめ、同たづ子、山口通男、奧村とし、荻原一、郡山緑、同さわ、同ふさ

八月十一日午後十時二十分釜山入港壹岐丸一二等客

一等(九名)佐藤卿藏、宮尾舜治、小田切次保、科正昭、英國人ロイド、同夫人、同小兒、名…二等(二十名)伊藤繁、早川篤一、高…

◎暴風警報(八月十三日午後…時發表)

示度七百四十六耗▲位置山東半島▲進行方向北東▲警戒區域平安南北道、黄海道、京畿道、忠淸南道、沿岸

百演藝案內

京城壽町 壽座 電話五七八番 …御馴染市川…

大正館 櫻井町 電話八七三 …

有樂館 電話…二〇五番 …ニコ〳〵劇『跳び跳たり』…人情活劇『黑風』…

黄金館 電話二三六六 …天然色活動寫眞…新派悲劇『霜の夜』全四卷…

浪花館 明治町 電話二六〇 △大阪親友派浪花節 原晴夢、竹川馬生、京山若圓三合同 ○今回に限り平素の御愛顧御禮として入場料は破天荒…金五錢均一

告在鄉軍人

秋山軍事參議官閣下來十五日午前八時四十分龍山驛出發に付分會員は同驛に集合見送相成度し

在鄉軍人會京城分會

職業

日韓政府特許加工品原紙貸與多年經營樂具皿敷包裝紙其の他具手工玩共中無休遊近男女誰れでも出來ます熟練日收(一圓位說明付見本郵券十錢)(特約店募集)

東京市本所郵便本局前 上田總本店

◎一代に百萬の富を作る決して難事に非ず

予が現に實行しつゝある利殖法

何人にも容易に實行し得る方法

株式會社富强世界社專務取締役 大迫利亮

▼金は誰にも出來る 金は出來ないものであると思つて居る、この人は金は出來ない一代にして巨萬の富を蓄積するなどと云ふが如きは、明治維新の時のやうなチンさして居ない時の事で今日のやうに社會の組織が萬事組立つて仕舞つては、無一文から僅かに成金となるやうな事は到底出來得るものではない、況んや一代にして一百萬圓の富が得られると云ふやうな事は全く空想であるら、空論であると一笑に附する人が多いであらう。併し金は作らうと思へば必らず出來るのである一代に一百萬圓の富を得ることも決して難事でない、要ふ人に來つて先づ予が如何なる利殖法を實行しつゝあるかを調べて貰ひたい。

▼成功致富の實例多し 昨年十月、時事新報の調査掲載したる五十萬圓以上の全國資產家表を見ると、現在我が帝國に於ける五十萬圓以上の資產家は合計二千二百〇一人であつて、之れを前回の調査即ち明治四十四年七月の調査に比較すると、其の數に於て實に一千百七十六人を增して居るワずか五年間に於て五十萬圓以上の資產家が一千百餘人增加したのである、而して其れ丈けの人が金儲けをしたのである。其事實は取りも直さず、社會の秩序が整然としたる現代であつても、金は出來るものであると云ふことを證明して居るのである。

▼金の出來ぬ理由なし 予は此の點に關して多年苦心の結果、先づ富を作らんと欲するもの第一條件が金利の觀念を愛因にするに在ることを深く感じ、日夜專念、約十年の長きに亘つて金利の研究に腐心し、自ら又、自己發案の利殖法を實行して二ヶ年足らずの間に約十萬の富を作り、又更に之れを關係の會社商店に應用して其好なる實效を擧ぐるに至つて、金利の實に侮る可らざる事を發見したのである。

▼天下の富豪金利を恐る 三井、三菱、住友の如き大富豪であつても、若し假りに、僅かに一萬圓の借金があつて其の借金に年二割の利子が附いて行つたと假定すると、實に一億一千萬圓の巨額に上つて、五十一年目に三井、三菱の富を以てしても尚且つ破産の運命に陷らねばならぬのである、故に之れを反對に見て茲に一萬圓の財產を有するものが、其の金を年二割に運用したとすると其の人は五十一年の後に三井、三菱の大資產家と成り得る事が出來るのである。併し、今現に無資產の人には此の論法では通用しない、即ち茲に先づ資金の百圓の利殖法を講じて、更に終る後に、其の資金の百圓を作る方法を講じ、無一文の人でも一貫から巨萬の富を作り出す實行方法を述べることとしよう。

▼百圓の資本で百万圓 茲に一百圓の資金を持つて居る人があつて其の人が其の一百圓を年二割の金利に廻したとすると一百圓を年三割とすると十年目には元利合計金一百十万圓となるのである又一百圓の元金を年三割に廻せば卅六年目に一百廿六万圓となり年四割に廻せば廿八年目に一百二十三万圓、年五割に廻せば廿三年目に一百十二万圓となるのであるから若しも百圓の金を以上の金利に廻すことが可能でないとするとも、一百圓の資金を有して居る人は誰しも一代に一百萬圓の資產家たり得ると云ふ事になる、唯問題は果して二割三割と云ふ金利に其の金を廻し得るか否かにあるが予は必らず以上の金利に廻し得るものと信じ、且つ之れを實行しつゝある一人であるから、之れから順次、自己の實驗に基く金利運用法を說く事としよう。

▼一日五厘儲ければ宜し 一百萬圓と云へば大金であるが、所謂、塵積つて山をなるの道理に洩れず、一百万圓の富を得んとするには先づ細かい勘定から出發せねばならない、此の僅かな金利の運用法が呑み込めた人丈けが巨万の富を作り得るのであつて、此の理窟此の計算の分らぬ人には到底金は出來ないのである、即ち其利殖運用法の一端を茲に公けにするが、十錢の資本で一日五厘五毛宛儲けて行けば、一百圓の元金は五十一年目に一百十万圓となるのである、十圓の元金で毎日八厘二毛宛儲けて行けば一百圓の元金は三十六年目に一百二十六万圓となるのであり、十圓の元金で毎日一錢一厘宛儲けて行けば一百二十三万圓となるのであり、十圓の元金で日に一錢三厘七毛宛儲けて行けば一百圓の元金は二十三年目に一百十二万圓となるのである、何と恐ろしいものではあるまい乎。

▼決して實行難に非す 他人は生吊の實際に試さない…

▼貧乏人諸々奮起す 世の多くの人が、一代に富を作るの望みなし、と絶望して遂に自暴自棄に陷るが如きは誠に嘆ずべき次第である、且つ實行して來たのであるが、故に予は多年此の利殖法を研究し、之れを公にするを敢てせす、唯、親族知己の間にのみ說き、稀には失意の境遇に陷りて努力を怠ふものに說き來つたに過ぎない、併し、予の此の計算法に勇躍を得て僅かに發奮努力するに至つた人も尠くなく、昨日、失望に泣きたる青年も今日は光明ある希望に滿されたる生活に蘇生するやうな實例も尠くなかつたので、茲に予が年來苦心せる利殖法を公開するに至つた次第である。

活の爲めには常に對資本利廻り十割以上の儲けをして居るの實例に乏しくない、例へば茲に百圓位の資本を以て一つの營業を始め、其の營業に依つて一家四五人の家族が生活して行くと云ふやうな實例はいくらもある、四五人の家族が生活するには、どんな片田舍でも一ケ月十五圓內外の金が必要である、して見ると一ヶ年百八十圓以上の利益であつて即ち其の對資本利廻りは年十割以上である、故に、人は生活に追はるゝが如き眞面目を以て、金利の運用法を考へるならば其の利廻は決して困難でないのである。

▼貯蓄投資講義錄の發行 今や、我が帝國は歐洲戰役の各列强と伍して、如何なる政策を樹立し、其の國是を如何にす可きかに就て、最も眞面目に考へねばならぬ時機に到達して來た、併し、其の國是を確立し國策と云ふも要するに、先づ金を作ると云ふ點に歸着すると思ふ、金が無くては國も强くはならない、即ち予は茲に深く決する所あり今回本社內に「貯蓄投資研究會」なるものを設け、「貯蓄投資講義錄」を發行し、人々をして貯蓄の實行をなさしむるのみならず、更に其の貯蓄したる資金を最も確實に、有利に運用利殖して先づ人々をして五万圓なり、十万圓なりの基礎的財產を作らしめ、更に進んでは一百万圓の富を成さしめんと努力する次第である。

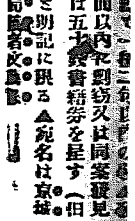
▼空論に非す實際的 旣に、金をためさせる爲めの講義錄であるが故に、勿論、空想めいた言葉は一字もない、講義は極めて平易で誰にでも解り、且つ一々實際の生活に先ては、まるやうに出來て居る故如何なる職業の人でも本講義錄を讀めば直ちに實行が出來るやうになつて居る。貯金のないものが之れを讀めば直ちに貯金が出來るやうに實行が出來ると、銀行や郵便局に安い利息で預金をして居た人は直ちに其の利殖法を變えて二割乃至五割と云ふ高利に廻すことが出來るやうになる。而して安全に確實に成功するこそが出來ると云ふ、恰も商品目を手引きするやうに一々懇切に指導してあるのが本講義錄の特色である。

▼會員には永久指導 單に講義錄が親切に金儲けの道案內をする許りではない、一たび本會へ入會した人は社友として永久に本會との關係を持續し、其の人が成功致富の目的を達する迄、本會に於て永久指導の任に當り、此の手で金が儲からなかつたら斯うする、それでも成功しなかつた際には斯く〳〵と一々實際問題を捕へて其の指導を爲し、永く諸君が最良の顧問たらんと期する次第である。

▼本社の確實なる事 本社は資本金二十万圓拂込濟の株式會社である、而して本社の顧問として現に其の經營に參與して居る高柳淳之助氏は無一文から最近十年間に四十萬圓の富を作つた人で、余も亦最近二箇年足らずの間に約十萬圓の富を作るに到つた、其他、本社の重役は何れも自己の努力に依り一代にして富を成したる人々である、以上の人々に依つて經營さるる本社が行の此の講義錄が如何に實際的價値あるかは改めて云ふ迄もあるまい。

▼百圓の元金を得る法 以上述べ來つた所の致富の要道は主として百圓の資本金あるものを土臺として來たが諸君の中には百圓の元金をせずかにして得るには如何にす可きかに苦む方もあるかも知れぬ、予も亦其の點に於ても注意を用ゐ、而して先づ百圓を得る方法に付ても基礎として誰にでも容易に出來得る實行方法を詳細に述べて置いたのであるが茲には之れを省略して置く。

▼今直ちに決心せよ 諸君の中には此の廣告を見て直ちに贊成する人もあらう、又種々なる屁理屈を並べる人もある可し、予は新らしき人を大いに歡迎するので、斯の如き人こそ予の大いに力を與へて說破せんと望む人である。故に此廣告を見て東京市神田區一ツ橋通町八番地株式會社富强世界社へ宛「貯蓄投資研究會規則書」と郵券三錢封入申込まる可し、講義錄內容說明書と共に分る規則書無代にて進呈す。



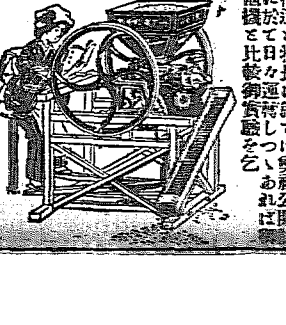
▲京城測候所 八月十三日正午 寅城 氣溫八十四度二分 …

何書何號と明記に限る ▲宛名は京城日報編輯局懸賞係

法人登記公告

左ノ通變更登記ス 地方金融組合登記事項中左ノ通變更 業務區域黃海道新溪郡中東面、西面、赤余面、沙芝面、村面、古面、多面、栗面 金川地方金融組合登記事項中左ノ通變更 業務區域黃海道金川郡山外面、西北面、古東面、金郊面、縣內面、白馬面、好賓面、多火面 右大正六年八月七日登記 海州地方法院瑞興支廳

精米麥機 人力



永久に利益を生む 精米麥機無限に若人が空想を以て期待されつゝあるし其の理想的精米機は今茲に生れたり構造と特長に就ては弊社公開の試驗に於て日々運轉しつゝあれば他機と比較御實驗を乞ふ

信用ある御方へは長期貸附又は月賦拂の御相談にも應ず詳細圖入說明書は御希望者へ急送す

大阪市大阪町 東亞物產製機界社

期米 一曾我商店

模範 牛乳 石鹼 洗粉 ニッソ

主 吉田 肥塚正太 京城蓬萊町四丁目 東亞牧場

●原料騰貴に付百匁に付五圓値上仕候

唐辛子印粉詰からし製造元 大阪天滿市ノ側 乾物商 黑川與兵衞 電話東二六四二番 振替大阪六四一六番

明君道中記

第二百三十四回　田邊南龍口演

松平長七郎は神崎郷太夫の勸めによつて小豆島へ船を著けさせて上陸をしたが、右老人の案内によつて間もなく來たのは寒霞溪といふ山の中に立派な家を構へて此處に住んで居るものを見ねきする。長七郎も此の構を見て感心をいたし『成程郷士といふから左もあらうが大した家に住んで居る者。かゝる小島にも怒うといふ家があるのか』と宇平治宅兵衞へ仰せられた時に兩人も感歎と感じきましたが、跡に續いて參つた木鼠三次は 三『成程殿様紅葉の名所だと云ひましたが大層な紅葉で綺に描いたやうでございます 長『成程佳い景色であるな 老『明日私が貴下方を御案内いたしますから彼の山へ行つて御覽なさい 三『どうぞ親父さんお頼み申します 老『サア／＼皆樣此處へ御通りなさる樣』と玄關より案内をいたし奥の一室へ案内いたしましたから長七郎は座敷に通り樣子を見ると正面の床の間には山水の掛物を掛け前には唐銅の置物朱欄の花瓶花活には時の物が挿してある、袋戸棚唐紙なぞは唐山の山水、金銀色縮の釘隱し天井は格天井にして障子は塗骨、庭の樣子を見れば築山泉水結構目を驚かすばかり、長七郎は感心をして居りまする處へ老人は其處へ參り 老『かゝる山家のこと故上げます物もございませんが御悠然召上つて下さる樣』と酒肴を其處へ出しましたが、膳椀皿鉢何から何まで結好な品々を並べて馳走をいたしますけれども長七郎は心に油斷をせず酒は一滴も飮まず食事も毒味をさせる譯ではないが先方で食してから喰べるといふ譯。宇平次宅兵衞も是を知つて酒を飮まずに居る。木鼠三次は元旅賊で命知らずの男、殊には酒が好きだから堪忍は出來ません。少し位毒が入つて居ても構はないといふのでガブ／＼飮む 長『コレ三次餘り飮んではいかんぞ』三『折角先方で馳走をしやうと云つて出したものですから飮なけりやア却つて失禮でございます。ね御主人そんなもので 老『左樣でございます、御意に叶つたら澤山召上つて下さる樣 三『決して遠慮はいたしません』と終には大な物で飮だからグデン／＼に醉てしまつた、宅兵衞宇平治も困た奴だと思て居る、内に食事を終まると茶を入れて其處へ持て來る 老『さア奥へ行てお寢み遊ばせ、明日は手前が御案内をいたしますから紅葉見物をなさる樣 長『イヤ老人手厚い世話になつた然らば明日は案内を頼みます』其儘次の室へ來ると其處へ並て床が敷てあるが何れも緋布の夜具蒲團、枕頭には閑行燈に煙草盆なぞが置いてある長七郎は其處へお寢みになりましたが、何うも當家の老人の擧動と云ひ家内の者の起居振舞なぞ目を著けて 長『宇平次宅兵衞決して睡つてはならんぞ、何うも家内の者の樣子が訝しい、尋常の者では無いと思ふ 宅『御意の通り如何に郷士と云へど餘り贅澤なる生活をして居ります樣子。殊によつたら山賊の棲家ではあるまいかと存じます 長『何にいたせ睡た態をして樣子を見て居れ 宅『畏りました』と宅兵衞宇平次も目を閉いで睡た振をして鼾聲をかいて居る、三次は眞錮に睡込んでしまつた。スアと縁側の處をガタ／＼／＼人が往つたり來たりする樣子、扨こそと思つて長七郎は傍にあつたる刄を取つて見て居ると、障子をスラリと開けて入つて來たのは船中にて取逃したる修驗者でございます、長七郎は 長『ハテ彼奴は船に乘つて居つた修驗者であつたわイ、然て見ると當家の主人も怪しい奴』と息をころして居りまする。

花柳病 皮膚病　須古醫院　京城府明治町二ノ三二（元貨幣會社跡）電話二一〇二番

牛乳 御用　京城東四軒町　岡野牧場　電話一〇六九番

外科 一般 泌尿器科 皮膚科 花柳病科　院長 安部修三　京城永樂町二丁目金光教會隣　安部醫院　電話四一九番

八月十五日　舊六月廿八日　巳　丑　本命五黄　八方塞　先負

公告

一 株式會社漢湖農工銀行春川支店登記事項中變更 監査役金漢奎及金溶泰ハ任期滿了ノ處大正六年八月四日重任シタリ
一 春川地方金融組合登記事項中變更 理事藤谷秀次郎ノ住所ヲ春川郡府内面司倉里七統五戸ニ變更ス
以上大正六年八月拾壹日登記
京城地方法院春川支廳

強くて安い
タイヤ 壹本 壹円九十錢　チユブー 同 八十五錢　耐力五千哩以上保險附
其の他上中下種々有之候　カタログ切見本御申越次第送呈
26 28 吋二種あり小包送料實費申受
大阪西區北堀江御池通六丁目二七　大阪ゴム製造所　電話西一九二一四番　振替大阪二七〇〇五番

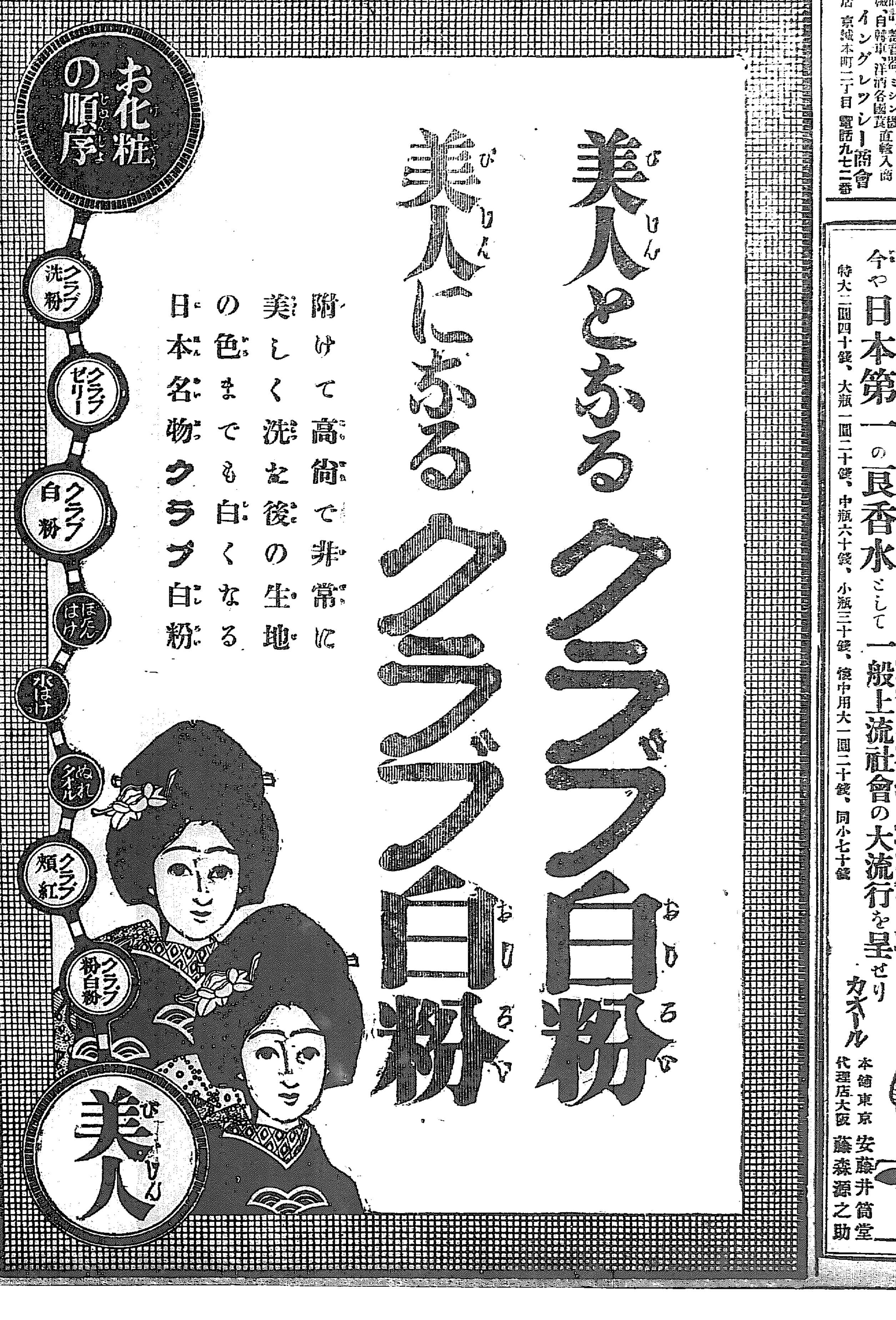
新荷著　スヰス製 アーシングア 懷中時計

優美堅牢正確なる實用的にして天下無比の低價格

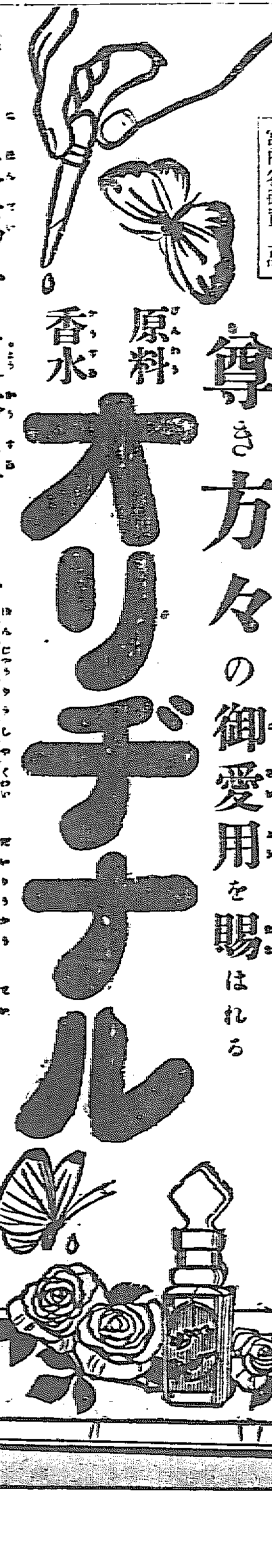
懷中時計（▲印はラヂユーム入）
ニッケル側十八形 二五〇〇 片蓋アンクル
同 [illegible]
目覺時計（▲印はラヂユーム付）
[illegible]
右は今回當商會の獨り之を有し他に無きもの故本品に限り小包郵便にて御注文に對しては代金引換
時計、蓄音器、ミシン機械、自轉車、洋酒各國貨直輸入商
イングレッシー商會　本店 京城本町二丁目　電話九七二番

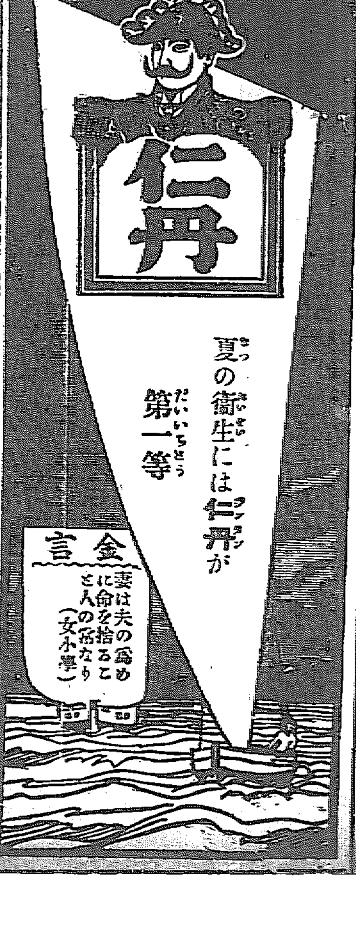
人畜無害
今迄に有ふれたる効能稀薄の物と全く違ひます　朝鮮總督府御認可

はい取散
効能 室内の空氣中に撒布せば蠅は十分間にて全死保證す 南京蟲油蟲等に特効
使用 商菊野藥樹木動物の蟲毛虱等に向けて右手で叩けば寒冷紗を抜けて細き分子が室内に廻る時蠅蚊の死とうたがい無し
全鮮一手元 京城南米倉町 藤井友造方 安藤安七
同 賣捌事務所 京城南米倉町交番所前 安田昇
▲募集 特約店反行商を希望の方は御照會を乞ふ
各地藥店並に小間物店にて販賣す

お花粧の順序


美人とふる　クラブ白粉
美人にふる　クラブ白粉
附けて高尚で非常に美しく洗ふ後の生地の色までも白くなる日本名物クラブ白粉

宮内省御買上品

尊き方々の御愛用を賜はれる
原料香水　オリヂナル
今や日本第一の良香水として一般上流社會の大流行を呈せり
特大二圓四十錢、大瓶一圓二十錢、中瓶六十錢、小瓶三十錢、懷中用大一圓二十錢、同小七十錢
カネール　本舗東京 安藤井筒堂　代理店大阪 藤森源之助



京城日報
第三版
八月十四日
（夕刊と合せて八頁）

露國の革命

四、露帝退位と新政府

露曆三月二日はロマノフ王家に取りて、露西亞帝國に取りて最も銘記すべき日であると同時に、新露西亞に取りては一大歷史的記念であつた。臨時執行委員會は勞働黨委員會と協議の上リオウオフ公を首相に推し臨時政府を組織した。閣員の編成終るや新外相ミリユコフ氏は議會の樓上より群集せる陸海軍將卒及び市民に對して革命の經過を詳說し新閣員の姓名を披露し國民の援助を請ふた。次いで新法相ケレンスキー氏は新政府は第一著に總べての政治犯人の大赦を行ふべきを宣した。群集は一齊に熱狂と歡呼とを以て兩相の演說を迎へた。而して此時はロマノフ王家に對して一大悲報を傳ふべき使命を帶びて下院議員ア、イ、グチコフ氏ヴエ、シユーリギン氏がプスコフ驛に向つてペトログラード驛を出發した時である。兩氏がプスコフ驛に著いたのは夜も十時であつた。露帝はルーズスキー大將フレデリックス宮相を隨へ御召列車中にペトログラードよりの使者を引見せられた。グチコフ氏は事變の經過を詳細に奏上したる後、更に語を改めて此場合陛下は退位せられ、皇位は皇太子殿下に讓り、ミハイル、アレクサンドロウヰチ大公を攝政に任せらるゝの外無き旨を奏請した。先是露帝は大勢退位の外なきを決心して準備しつゝありたることとなれば卽坐に奏請を聽許せられたけれども皇太子の卽位は辭退され、皇弟ミハイル、アレクサンドロウヰチ大公をして皇位を繼承せしむることに御決定があつた。露帝退位の詔勅は左の如きものである

開戰以來三個年我祖國は外敵に對し惡戰苦鬪を繼續しつゝある時神は今又我國に新なる苦痛を與へ給へり國內に於ける騷亂は將來戰局の發展に恐る可き影響を齎さずんばあらず然るに露國は國家の運命を賭し勇敢なる軍隊の名譽國民の利益幸福を犧牲にし將來の國利民福を計らん爲め終局の勝利を得るまで戰爭を繼續せざる可らず今や殘忍極りなき敵は最後の勢力を集中して我國に對し[illegible]行せんとしつゝある時[illegible]亦勇敢なる聯合國軍隊と[illegible]策應して敵を根本的に擊破せんとし今正に其時期の近づけるを覺ゆるものあり此危急の場合に當りて朕は我國民の一致團結を牢固にして最後の勝利を得んがため徒に國內の騷亂を繼續するの不利なるを認め此に下院と協議の上露國皇帝の位を退くに決せり朕は我愛子皇太子と別離するに忍びず仍りて皇太子と運命を共にすべし而して皇位は朕の弟ミハイル、アレクサンドロウヰチ大公に讓ることにせり朕は同大公の露國皇位に卽かるゝに際し同大公を祝福す朕の皇弟は立憲の基礎とし國民の代表者と一致協力して國家を治め露國將來の發展に盡すべきを信ずると共に國民は此國家危急の秋に際し皇帝の命を奉じ意を體して國民の代表者と共同して露西亞帝國が勝利幸福名譽の域に達すべく努力奮勵せんことを國家を愛するものゝ名に依りて朕は爾等臣民に勸告す

神よ露國を救ひ給へ

御名　ニコライ

一九一七年三月二日午後三時五分

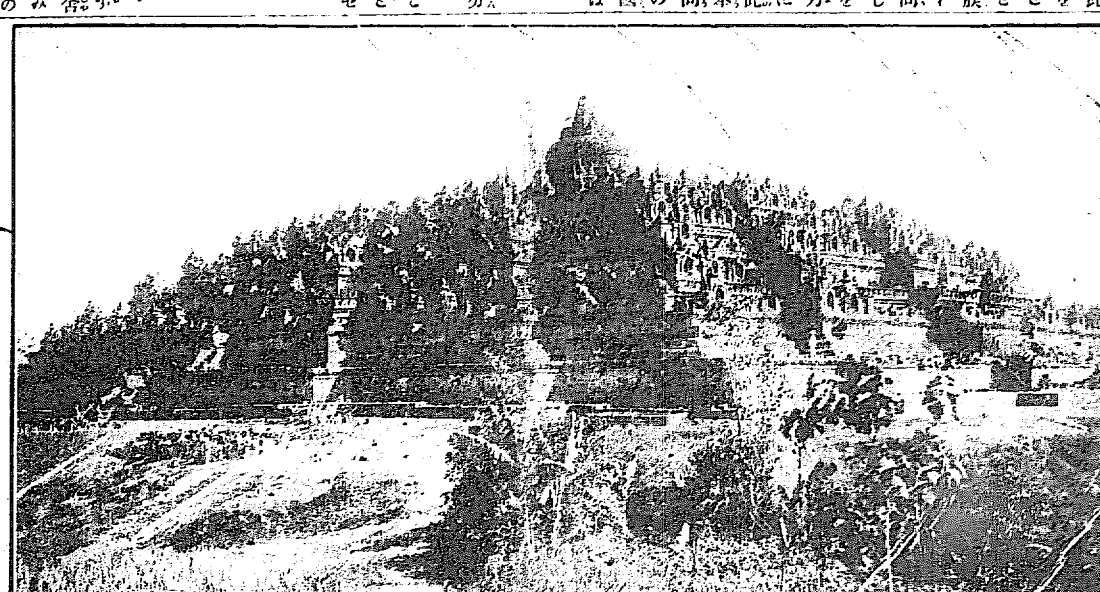
プスコフに於て

此詔勅は四日に發表された。越えて七日には閣議に依つて廢帝と皇后とは自由を奪はれ、ツアールスコエセローに幽閉さるゝことゝなつた。

放浪漫記

七月三日セレベス島メナドに於て　大谷光瑞

（承前）元來佛敎建築は方形にして、角又必ず面も多角なるを普通とす。斜角は稀なり。精舍の如きは盡く然り。唯スツパのみ覆鉢をなし、圓形なりとす。此地の建築は稍ドクビアンに類す。蓋し南印度の土人の手に成るによるならんか。毎層の側壁に浮彫をなせり。傳へ言ふ、如來八相成道の圖なりと。靈く然るや否や、一瞥以つて斷ずる能はずと雖も、其大部分は然るが如し。往年は修理行はれず、敗殘最も甚しと雖も、近時（千九百零七年）蘭政府修理を施せり。然れども石壁部斜にして、過ぐるもの心悸せざるもの稀なり、頗る遺憾とす。早く之が備をなさざれば臍を噬むも及ばざらん。此の大塔に上り東方を見るに、メラピの火山硫烟を半空に噴く、脚下柳林蓮圃相次ぐ、又形勝の地たり。塔に近く孤舍あり、數間の臥房を有す。遊人の來り泊するを待つ。ジョクジャより來る遊人は、多く拂曉之に來り、烈日の石塔を射るの炎熱を避く。或は云ふ、初日メラピの上に昇るを見るは壯觀なりと。或は然らん、故に遊人は此の孤舍に朝餐をなすを例とす。小生の時も十餘の遊人、入て食をなせり。この大塔の外、二哩を隔て兩個の精舍あり、甲は大にして乙は小也。大精舍の中、精巧の佛像を存す。慈顏幸に損せず、ジャバ美術第一の偉觀なり。正午に近くジョクジャに歸り、寄土の廢苑を見る。午後一時ジョクジャを發し、スマランに向ふ。此よりスマランに至るは私設線にして而も四呎八吋半の廣軌なり。故にソロに至るまでは政府線と同行し、三軌を並進せしむ。ソロよりスマランに至る間は地は概ね平坦なり、蔗圃最も多し。六時スマランに著す。此の地は明の永樂年間、支那人の來り初めて居住せる所にして、今猶其始祖三寶の祠を有す。故に支那人は稱して三寶瓏と云ふ。此地華僑頗る多く、巨富亦多し。我邦人亦少からず。三井、臺灣銀行其他個人の商店あり、臺灣人郭春秧氏は、巨富にして名望少からず。翌朝市外を見るに、高丘あり上に邸宅を連ね。是れ歐人、華僑、豪富の住居せる所なりとす。郭氏亦此鄕に僑す。小生を招かんと云へり、然れ共行旅時無きと、郭氏微恙あるを以て、後會を約して去る。



◇巨大なる佛蹟（放浪漫記參照）

涼揚詩話（三）

天彭

△槐南の手誘を受けて[illegible]し、そして現時に於て多少の地歩を占めて居るものは、[illegible]谷[illegible]東郭、[illegible]川[illegible]信、關[illegible]の諸子である。槐南の詩風はこの諸子によつて多少保存せられつゝあるのである。

△東郭は[illegible]（詩人）を學び、[illegible]今日にまで[illegible]て居る、[illegible]はあるが、さすがに[illegible]情趣がある。[illegible]侍從に本じて、[illegible]侍從の[illegible]しい。それは雨の日にも能く陛下の詩のお相手を仰つけられるからである。それゆゑ應制の作を折々見受けるが、應制の作を[illegible]中に留める人は、恐らくこの人を以て恐らく最後とするのであらう。

△竹[illegible]は心を靜めて郭[illegible]（詩人）を研究し、いかにものんびりした詩手である。久しい間、[illegible]詩界に顏を出さぬやうであつたが、[illegible]たる關係で槐南[illegible]男に立てられ、[illegible]の遺稿を整理する傍ら、自分の[illegible]を[illegible]行して居る。その[illegible]しく[illegible]化し、宋人の詩の[illegible]を[illegible]し、[illegible]家の趣味を[illegible]したる句法中に發揮する行方しつゝ居る。元來この人は[illegible]を以て性命とするだけあつて、[illegible]たる點に於て他の企及を許さぬ技倆があつた。目下の變化は注目に價ひするものである。

△寧庵は力を盡して吳梅村（詩人）を學んだのであるが、奈何せん才力の足らざる憾みがある。されど一種高華たる點あるは梅村の手法が存して居るのである。隨鷗吟社にこの人が居なかつたら、吟社に槐南の派跡が無くなる筈となるのである。

誰（56）

布施生譯

躍起となつて打消したが老人は聞かないのか、聞いてもそんな事は問題で無いのか、兎に角鈴富の抗議には耳も貸さず『それはそうと此手紙の文字は一體何から切拔いたものだらう。』そして一心不亂に其手紙をためつすがめつしてゐたが『うむ四號活字の草書と、はてな、新聞や雜誌では無し、小說でもあるまい、何でもこう見馴れた字體だが、はてな。』暫時は考へ込んでゐたが忽ち磁と膝を打つて『分つた、讃美歌く、そうだ讃美歌だ。』老人は其手紙の糊貼文字を一字一字唾で濡らして充分濕つたのを見澄まし留針でそれを剝がしてみた、裏を返すと果して[illegible]と云ふ讃美歌の文句が半分に斷れてゐる『そら思つた通りだ、よし、何處に此切拔いた原本があるだらうかなあ。』

しかし其處へ門番が例の使に來た男をつれて戻つてきた、老人は此男に向ひ手紙を示して『之を持てきたのはお前か。』『へい私で、宛名の御方が妙だつたからよく覺えて居ます。』『誰だい、之をお前に賴んだ人は男かい女かい。』『男でも女でもありません、矢張り走使をする男でへい。』[illegible]が研究しいので門衛は笑ひこける、老人は矢張り大眞面目で『お前が、驛逓の男かい』『い、え、飾らない男で、へい』『どんな男だつたい。』『中肉中背で普通な顏をした男で。』『それだけぢや分らないな、誰からの手紙だと言はなかつたかい。』『言ひません、そら六錢やるよ、之を雛町三十九番地へ持ていけ、己は停車場で車夫から賴まれたんだと云つた丈で、へい』老人は此答に滿足しなかつた、そこで使の男に向ひ『お前は其男に會へば分るかい。』『分りますとも。』『よし、處でお前の一日の稼高は幾何ある。』『私の稼高かね、左樣さ、まあ五十錢位のもので、旦那樣』『よし、一日に一圓やらう、今から何處でも構はん、街中を歩き廻つて此使の者を捕へるんだ、可いかい、毎晩八時に大佛屋―知つてゐるだらう、平町の宿屋―へ往つて讃福さんと尋ねて來なさい、そして其日の事を知らせて金を貰ふんだ、首尾よく捕へてきたら五圓の折賃をやる、可いか』大喜悅で此男の往つてしまつた後から老人は鈴富に向つて『さあお濟んだ、昌樣、御飯でも喫らんかな。』

八品新太郎が話した通り、盜難事件で鈴富が警察へ引張られてから保部老人は全然[illegible]切つてしまつた、一體が柔衞して極めて交際の良い性質であつたのに、それからは成るべく人を避けて終日居間に引籠り、食事時間でなければ滅多に部屋から出て來ない、そして默つて飯を濟ませて濟めば早々居間へ引上げて仕舞ふ一日心配顏をして呆然と考に沈んでゐる樣子は全然昨日までの保部老人と人柄が違つて見えた。

鈴富が放免になつた朝も保部氏は例の通り居間に引籠つて机に肱をつき顏を手に埋めて茫然考込んでゐると、上女中が淑やかに『鈴富樣が御親類の方と御一所にお見えでございます。』と取次いできた『鈴富が？』老人は勃然としたらしく『何だ、彼奴がその面さげて。』と言ひかけたが不圖召使の前だと氣がつくと流石に直に氣を靜めて、『可笑、丁寧に此方へお通し申せ。』

東洋拓殖　四二四、〇〇　四二八、八〇
[illegible]　四二九、九〇　四二三、四〇
[illegible]　四三六、〇〇
[illegible]　四三八、八〇　四四〇、
[illegible]　四四〇、〇〇
[illegible]　四三九、〇〇

東洋拓殖　二七二、九〇
合同綿紡　一〇九、九〇
鐘淵紡績　[illegible]
同新株　[illegible]
東洋汽船　[illegible]
大阪商船　二七九、〇〇

▲十三日[illegible]大阪[illegible]十二圓八十五錢にて[illegible]地場寄末[illegible]中十九圓七十一錢先十九圓二十[illegible]に寄付たるも[illegible]にて[illegible]內の[illegible]に三面を途りたるが兵庫[illegible]二十一圓九十六[illegible]二十一圓三十三錢大阪[illegible]二十一圓七十

▲底強く下澁る　[illegible]

本紙代價　一部金二錢五厘　一ヶ月金五十五錢　郵稅一ヶ月金五錢[illegible]
廣告料　[illegible]
發行兼編輯人　奥田直[illegible]
印刷人　小川三之介
發行所　京城太平通一丁目　合資會社　京城日報社
電話[illegible]

東京特許辨理協會
特許出願取扱
○本會ハ斷練ナル特許辨理士ノ取扱ナリ
○特許、新案、意匠、商標事件ヲ輕便懇切ニ取扱フ
○發明ノ內容ヲ申出デアレバ無料ニテ特許ノ許否ヲ鑑定回答
○申出ニ依リ案內書無料送呈
東京大久保百人町

巖谷小波先生監修
特別附錄 幼年活動寫眞
兎に乘つた幼年諸君がブカブカドンドンの樂隊につれて月の都へ乘込む面白い新案フヰルム
幼年畫報
凉しい美しい九月號　各十二錢　正價　郵稅一錢
東京 博文館
幼年世界
小波お伽 雷の迷子　小波作
極彩色口繪八頁に珍奇な寫眞 面白い小說！新案懸賞！圖書懸賞其外數々程讀物があります

私立日本獸醫學校
◎本科第一學年若干名（高等小學卒業又中學二年終了者）願期九月八日迄
◎特典 徵兵猶豫一年志願兵無試驗開業文官任用等
生徒補欠募集　東京市外下目黑　規則書要郵券二錢　校長厚木納平次

曹洞大學教授 原田祖岳老師著
禪學質疑解答
四六判總假名附　定價一圓十錢　送料八錢
四方參禪の士或は讀書或は打坐而して難解難透の疑問に逢著する毎に之を斯界の巨匠原田老師に質して未だ悟徹せずといふもの無し今這個難問四十題を選び電光石火裡に緇素を分ち閃電光中に殺活を縛する機鋒眞に痛快辛辣
原田老師著 參禪の階梯　定價金壹圓　郵稅金八錢
東京市小石川京町六　丙午出版社　振替東京一五六八六
京城　大阪屋號

九月號
文學士寺田精一先生監修
トモダチ
美しい繪と面白いお伽噺が滿載　（手工附錄）ヒカウキは興味深し
特別大懸賞あり　全國書店にあり
一冊十二錢（郵稅五厘）六冊稅共七十錢　十二冊稅共一圓卅錢
東京麴町富士見町一　葉社　振替東京三一三六三　電話番町四〇五八

發電機賣物
一ラストンプロクター會社製吸入瓦斯機械　百三十馬力　壹臺
一ゼネラルエレクトリツク會社製三相交流發電機七十五キロワツト　壹臺
電壓三千ボルト　回轉數七百二十回　サイクル六〇
其他配電盤及附屬品一切
製造年月日　西曆千九百十年製
右は試運轉渡し
驛附市下西町　金物商　松隈本店　長電話四十一番

直輸入
土木建築金物商　諸官衙御用達
鑛山用金網各種
京城本町一丁目
佐野彥商店　電話一六三番　振替京城一二〇番

東京市私立 認可
自動車運轉手
自動車學校
[illegible]

解傭廣告
店員　阪本三之祐
右の者今般解雇致し候間此段廣告候也
大正六年八月十四日
京城府蓬萊町一丁目　東生鐵工所　電話一四九一番

新築落成に付（香節の筋向へ）八月十一日より移轉開業す
△向ふ一ヶ月間大割引
京城黃金町二（電話一四三四）
高等寫眞館

京日案內

普通
◎美顏術開業 並に美容洗粉販賣仕候に付是非一度御試しの程願上候 京城本町四丁目 東洋美容舘 417
◎金融 官吏商人の方大小に依らず貸出候秘密迅速 黃金町一ノ一九三 支那料理金谷園橫上ホテル屛側 柏屋 421
◎宅地賣却 場所櫻井町二の一壹一 一坪廿三坪 御望の方は左記へ照會 市外龍島 富田彔吉 423
▲有給男女記者及社員採用 本人履歷書携帶委細面談 魁新聞第三番函社 京城吉野町一ノ一二七番 電二七七二
◎土地讓渡 場所櫻井町一丁目大正館裏 百三十八坪 價六圓七十錢 姓名在社 412

番外
◎外廻り募集 無學の男女でもよし其日より有給 南米倉町交番所前 藤井 409
外勤社員採用 年齡卅歲以上の者にして外交の自信ある紳士 京城南大門通二 大同生命京城支部 383
看護婦三名見習三名入用 京城本町五丁目稻荷座前 電話二〇一二番 大和病院 426
店員入用 十八九歲より卅歲迄要身元保證人 京城本町五丁目四八 峯岸雜貨店 419
◎看護婦入用 櫻井町一丁目 池上醫院 電話二七一番
哲理治療 諸病癖一切 永らく惱める人は一度御實驗を乞ふ 邦家の為め 南金町西ノ二一六番地 至誠堂佐藤 424
◇新古ミシン賣買 電話又はハガキにて御一報次第參上 京城鍾路二 パゴダ公園近 電話三三三八番 楠商店 389
◎鑛物各種分析 太平町二丁目二六（電話二八二三）遠藤醬油店向側入る 松永分析所 418

○英國内閣動搖か

ヘンダーソン氏の辭職

英國勞働黨首領ヘンダーソン氏は無任所大臣として ロイドヂヨージ内閣の重鎭なりしが首相ロイド氏と政見を異にする所ありたる爲め辭職せり戰爭繼續に對する勞働黨の行動頗る注目に値す(紐育電報)

○日本增派艦隊活動

增派されたる日本艦隊は歐洲の海上に於て或る新たなる重大任務に就き盛んに活動しつゝあり(倫敦電報)

○英勞働者大會決議

英國勞働者大會はストツクホルムの社會黨大會に委員を派遣することに決議せり勞働黨首領ヘンダーソン氏の無任所大臣辭職は之に關聯せるものなりと傳へらる(倫敦電報)

○ニコライ大公危篤

曾て露軍總司令官の重職にあり革命政府樹立と共に退職せるニコライウイツチ大公は豫て病臥中の處危篤に陷れり(露都電報)

○ラボス島無線電信押收

墨都來電に據れば墨西哥官憲はラボス島の無線電信所を押收せるが右は獨逸と通信しつゝありしものと信ぜらる(東京特電)

○佛國航空隊爆彈攻擊

佛國航空隊は獨軍が飛に巴里の北方を襲擊せるに對する報復手段としてフランクフルト、オン、メーンに爆彈攻擊を行へり(巴里電報)

○シドニーの同盟罷工

シドニー來電に依れば鐵道及び電車從業者一萬數千人の外波止場炭坑の人夫同盟罷工し船舶の荷役不能と爲れり(東京特電)

觀瀾亭雜俎

蘇峰生

○獨逸が相ひ挑らず、自衞の爲めに、兵器を把りたりとの發明は勿論、三年後の今日に於てさへも、英國は依然戰爭は自國利害の爲めならず、唯だ自耳義の蹂躪と、佛國の存亡との爲めに、已むを得ず參加したるものなりと、聲言しつゝあり。現に八月一日倫敦電報に於ける、外相バルフォア演說の如き是れ也。蓋し自から斯くの術に於て、英人は殆んど第一の天性を成したるが如し。

○若し事實を赤裸々に暴露せん乎今回の大戰爭は、種々の原因、種々の事情、混同錯綜するも、詮じ來れば、英獨の爭覇戰に他ならざるなり。

○自餘の諸國の如きも、それ〴〵理由もある可けれども、要するに此の二大國の尻馬に乘りたるもの也。或は其の先棒に使はれたりと云ふも可也。甚だしきは諸國自ら一種の彌次馬と云ふも、亦た可也

○本來仲裁者たる可き米國が、開戰三年後の今日、突如として戰爭に參加したるは、如何にも意外千萬也。其の辭言する所を聞けば、彼等は宛も古の十字軍の如く、一種の民主軍とも云ふ可く、世界に向て、民主主義宣傳、軍國主義退治の爲めに、參加したりと稱する也。如何に發奮的、狂熱的の特色を有する米國たりとて、此れのみにて戰爭に參加す可しとは思はれず。吾人は其の原因に就て、冷靜に研究す可き必要を認む。

○其一は南米に於ける獨逸の勢力を一掃して、自から取りて之に代らんが爲めならむ。其二は獨逸の勢力を忌憚し、其の米國の恐怖たらざるに先んじて、之に打擊を加ふるが爲めならむ。其の表面の辭言の如きは、恐らくは第三、第四以下たらんのみ。

○復辟顛末編纂脫稿

[illegible]

◎鐵嶺水害慘狀を呈す

[illegible]

◎八丈島本土間通信全く杜絶

[illegible]

○支那宣戰布告如何

北京駐在協商國側の公使は十一日特別會議を開催したるが林駐支公使は同夜段總理を訪問會談する處あり支那の對獨宣戰は十三日若しくは十四日中に布告せらるべし(北京電報)

○段政府の親日內訓

過般日支親善の意味にて兩國間の懸案一掃を聲明せる段總理は今回更に各省督軍に對し日支親善の實を擧ぐべく長文の內訓を發せり(北京電報)

○山田聯隊長發期

新任山田步兵第七十三聯隊長は來る二十八日神戶發、羅南に向ひ赴任の豫定なり(大阪特電)

◉宮尾民政長官と語る

絕食一日――都督府の豫算――鮮銀と東拓――滿洲に於る日本移民の能否――土地商租――廿年前に於ける鮮內の經濟調査――

赴任の途にある關東都督府民政長官宮尾舜治氏を十三日午後三時大田驛に迎ふ粗末な詰襟の夏服を著けた長官は漸く今朝飯に有り付いた所だと旨さうに辨當を喫めてゐる、何でも東萊溫泉で前日の夕食を早めに食つた儘、夜行列車に乘り込んだが沃川驛で列車は十時間も立往生したから彼れ是れ

▲滿一日絕食した のだと云ふ釜山で汽車止めにあひ、途中で列車が永い間動かず、更に飢ゑを覺へた事とて流石樂天的の長官も若干困つたらうが『天災じや仕方がない』と吐き出すやうに云ふ、滿洲の水害や兩三日前の京義線の故障を記者が話すと『ナニ今度京城を立つと、ドコも通じて一路平安だらう』と一笑する曰く今度旅順に著くとすぐ大正七年度の豫算編成を大急ぎにやらねばならぬ、何しろ關東都督府の豫算は小さいもので、鳥渡朝鮮の十分の一位に過ぎない、尤も前年度までは約百萬圓ばかりの阿片收入を都督府で自由に使つてゐたから、役所向きは頗る豐かに見れてゐたが

▲本年の四月以來 之れを政府の收入としたため、從來のやうに都督府の御手許潤澤と云ふ譯には行かない、しかしそれだけ國費支辨事業は多く經營される譯だ、思ふに滿蒙に於ける帝國々力の進展はどうしても都督府の如き小さい機關のみでは不可ぬ、グン〳〵民間の實勢で押し進まなくちや……此點に於て近來內地財界が未曾有の好景氣を呈し居るため、其の充溢せる資金の流れ場所の一として、滿蒙の實業方面に著目してゐる母國資本家が少なくない事になり

▲滿洲各地に發展 し更に大に活動せんとしつゝあり、又東拓が來る十月一日から進出して來る、迎へ舛う云ふ經濟的の發展侵入は喜んで迎へ舛、東拓も滿洲に出た所で當分は不動產金融方面に活動する外土地經濟や植民と云ふやうな方面はオイソレとも延び兼ねるでせう、差し向き手は延ばれても追而は滿洲移民もやるのだらうが、さて其の移民招致の能否は如何なるものである乎、吾輩をして言はしむれば理論上より云ふと移民招致可能なりと斷ずる、唯實際問題として見れば果して如何なる結果を來すか、之れは

▲輕々に斷じ難い ものがあらう、何となれば差し向き內地農民が滿洲に入つて來て支那人と同樣の農業をやらうとしても夫れは體力生活程度の相違などから見て到底駄目である、乃で滿洲の日本移民は大農式でスチームプラウを使ふとかスチームプラウでなくとも相當馬匹耕牛を使ひこなす事に於て、其の營農は面積次第により採算は出來るだらうと信ぜらるるが、由來日本農民は先天的に集約農法に馴れて大農經營に適しない傾むきがある、不得手である、樺太などに日本農民を移植してみても唐鍬を使つたりすると云ふ風である、乃で滿洲に於ける日本農民が、實際に打つかると全然日本式農法と云ふ事を離れ、つまり頭を作り直して大農經營にかゝらねばならぬ

▲待遇條件を良く すれば出來ない事はないと云ふ理屈になるが、それが出來るか怎うかが問題じやらう、唯其の土地經營も移民も根本の土臺となる土地の商租を如何にして支那側より得るかが先決問題となる、此の土地の商租、又滿洲に於ける多數鮮人の保護と云ふやうな問題は著任の上相當の調査をなし適當の處置をとりたいと思つてゐる、長官は在滿領事館と都督府の關係なども話されたが、公表を憚る點もあるやうだから

▲茲には差し控へ やう、更に長官の朝鮮に對する智識は頗る的確で又甚だ實際的である、段々聞いて見ると、これも其の筈だ長官は去る明治三十一年乃ち約二十年前露國が極東經略の雄志を抱き、東淸鐵道や露淸銀行等の機關により壓力を滿鮮の野に逞しく加へ出した時日本の大藏省は、それでは默つて居られぬと云ふ事となり、當時若手の元氣な書記官であつた氏を朝鮮に派遣し國內の經濟調査をやらした、其の旅行に就き氏は曰く『全く單身で通譯の小僧一人を伴ない約八箇月間南鮮西鮮は勿論北鮮の

▲會寧慶興こ云ふ はしばしまでテクついた、其時の經濟調査は目と頭でやつたのだ、困つた所で駄目だから聞かない、觀察臨なさには全く何の農作物鑛產水產等を一々踏査した、唯總稅務司のブラウン氏に就て貿易統計を漸く借り入れたが、ブラウン氏は遊な不完全なものを貸しはしたものの一夜で返せと云ふ條件だから、吾輩は徹夜で筆寫したものだ、當時可なり辛酸を嘗めたが、遂すに途を以てすれば危險は避けられる、さう無闇に殺されるものではない、仁川と釜山と元山と京城に若干の邦人……それに南鮮及び東朝鮮沿岸に、

▲少數の日本漁夫 が入つてゐるだけで、內陸には素より同胞は影も見られぬ、唯陸軍は大尉位の人を派して土地の狀勢や山嶽の標高などを目測させてゐるやうだつた恐らく文官で朝鮮內陸を最も早く小實に踏査したのは吾輩だらう』と云ふ乃で記者が『其後と雖も八箇月も鮮食を喰ひ鮮屋に寢ね草鞋がけで半島を行脚した者は恐くないでせうエライ御壯擧でしたな』と云ふと『其程でもあるまいが……』と語尾を濁しつゝ『其後何回も朝鮮に來た、最近は共進會の時にやつて來た

▲來る度に變つて 行く、開けて行く、朝鮮は白衣とポプラがなければ內地と感じが違はない、植民地のやうな氣分はしない、これで段々よくなつて行くだらう』

◉咸北黑鉛暴騰

咸鏡北道城津地方に於ける鑛業熱は

[illegible]兇をきくに大正二年以來郡に一洞又は二洞の模範農[illegible]指定し農事改良の[illegible]別の指導を加へつゝ[illegible]は風土其他の事情により多少獎勵上[illegible]置、森林組合設置、種樹保護、副業に[illegible]の獎勵等の事項を實行せしめつゝあり[illegible]計畫通り[illegible]りて相當成績の見る可きものあり[illegible]

[illegible]百九十六隻[illegible]二千石積)は十二日[illegible]る第一[illegible]丸(總噸數[illegible]豆二千石を滿載し[illegible]通し引換證を發行し荷主の便利を圖る[illegible]し因に同船は十三日北鮮社の[illegible]向け[illegible]

◉慶北牛皮好況

今度一層の改良を要す

慶北地方に於て產出する牛皮は近時乾燥場を設置されたると畜牛取扱方法の改良されたるに基き鞍傷又は釜裂等より生ずる損傷を除去するに至れる一方漸次諸方面に亙り用途の擴大しつゝある中にも

▲製靴用こし この需要著しく增加せる傾きあり昨今內地に於てはキツト皮の輸入減退したるより俄然ボックス皮の需要を喚起し中流社會に於ては專らボックス皮製靴を使用さるゝ爲め小牛皮の價格騰貴し去月頃まで七十貫匁を唱へたる牛皮は今や八十圓臺の高値を示すに至れり又過般露國より長靴七十萬足の注文ありたる影響に依り之れが原料に供すべき大中牛皮は貫分の騰貴を免れざるべく豫期されたるも事實は然らず却つて

▲若干の下落 を示せり即ち本年一月に於て五十八圓なりし牛皮は其後三月に至り六十圓となり四月に至り六十二圓に騰貴し五月六月は下落して五十七、八圓を唱へ七月に入りて八十圓を突破したるが尙ほ將來と雖も生活向上の影響に因り下落するが如きことなかるべく漸次

▲需要を增加 する見込なるを以て慶北地方に在りては今後皮剝調製に際し一層の改良を施して品質を佳良にし內地市場に於ける聲價の發揚に努めざるべからず(大邱)

◉江景地方稻作

全北江景附近一體は挿付當時降雨あり高地も悉く植付終了し其後出水ありたるも被害尠く頃日又害雨あり稻田の成育旺盛にして此順ならば本年は確に平年より二三割增收なるべし

◉宮尾長官入京

新任關東都督府民政長官宮尾舜治氏は其の搭乘列車が大田沃川間に於て故障に際會せしため十時間以上を遲れ十三日午後七時南大門驛著關屋局長和田久芳其他高等官大田鮮銀理事高野三井店長等多數の出迎へを受け入京朝鮮ホテルに入りしが十四日總督府訪問十五日午前九時十分南大門驛發列車にて直路任地に向ふべし

◉牧野博士歡迎會

東京帝大教授法學博士牧野英一氏は十四日入京數日滯在に付渡邊法院長國分長官荻田局長吾孫子校長矢野通信課長等發起となり十五日午後七時より朝鮮ホテルに歡迎會を開く由なるが會費三圓にて希望者は東洋協會專門學校に申込むべしと

◉奉天新聞發刊

撫順で服部暢佐藤善雄兩氏により計畫中の奉天新聞は愈々九月一日第一號を發刊する由尙同社主筆河內山武氏は六日同地の重なる方面を歷訪して挨拶を爲し服部社長は七日新聞記者團を南文に招き披露宴を催ふせりこ

人事消息

▲藤川愛[illegible]氏(海軍少佐) 十三日夜[illegible]入京朝鮮ホテルへ

▲レー氏(英國領事) 十三日朝內地より入京[illegible]

▲江頭[illegible]氏(久原鑛業技師) 同上[illegible]へ

▲足山直治氏(東京辯護士) 同上京[illegible]へ

▲梅田[illegible]久雄氏(理學士) 同上

■南言北語■

去年の秋の頃獨逸國內の形勢が一變して一時は餘程惡劣になつて來た時▲此の危殆に瀕しても未だ眼を醒ふて居やうとするのは其の心が知れない▲獨逸と墺地利とは土耳其勃牙利と一所に討死しなければならない刹那迄押し寄せて來た▲此先は愈々悲劇の一幕を演ずるばかりの事▲勃牙利が潰倒し希臘が敗滅し墺地利は分割されて其上に獨逸は散々な觸殺しに逢はなければ眼が覺めないのか知ら▲と大膽な豫言をした獨逸人がある▲其れから先々月中旬の事瑞西社會黨員のグリムなる者が瑞西外相ホフマンの委任を受けて露西亞に行き▲獨逸と露西亞の接近を開かうとして失敗し▲グリムは追放せられ瑞西外相は退職の止なきに立至つた際▲激烈な攻擊を獨逸の政策上に加へた獨逸人がある▲此の獨逸人は獨逸開戰以來今日に至る迄隨分激烈な獨逸の批評をやつて屢次禁刑の人となつたが少しも屈せず▲一步も其の主張を枉げず其の批評は愈々出て愈々急潮となつた▲而して其の攻擊の目標は主としてカイゼルの身邊に在つた▲彼は毎々獨逸の眞相を語り獨逸の實狀を傳へる點に於て確に一頭地を拔いて居た▲此の獨逸人は誰あらう獨逸社會黨員でツークンフト雜誌の主筆マキシミリアン、ハルデン君である▲獨帝は屢々彼に種々の壓迫を加へたけれど彼の生命は唯だ眞理の一つに在つて其の壓迫も効を奏せなかつたが▲法の威力には遂に勝てなかつたと見れて先月中旬陸軍書記に召集されて▲もう一言をも吐く事が出來ない位置に陷つた無論之れは獨帝の指しがねでつまりハルデン緘口策である▲之れには流石のハルデンも參つたらしいが▲人を見て法を應用する獨帝は矢張左るものだ

夏秋蠶種發賣

著年通りの責任を以て發賣致候代金は一切前金の事
例へば第完全なる郵送筒に納め御送付致候
途中發生又は其他異變の場合は御取替又は御返金致候
御送金は小爲替又は振替京城二二六二番御便利に候

內地製特別蠶種 代價一枚金六十錢 九月末日迄毎日出穴

京城府漢江通四番地
東蠶社種苗部
電話龍山六四番 電略二(ト)
振替口座京城二二六二番

カーバイド

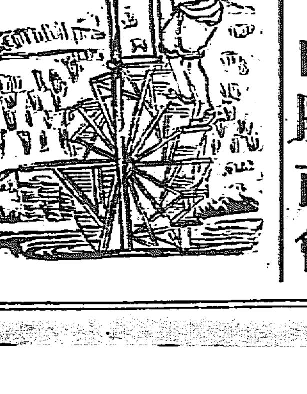
東洋卒先者たる我田中カーバイドは品位卓越にしてアセチリン瓦斯の發生力最も強大なる事他品の遙に及ばざる所世間の定評なり

各種ランプ及附屬品

漁業用鑛山用室內用自轉車用作業用等堅牢完全なる各種ランプ及附屬品格安に販賣仕候

田中カーバイド鮮滿總代理店
京城南米倉町十七番地
山陽商會

水車



農蠶用具 肥料種子
京城南大門通三丁目
戶田春藏本店
工場 旭町二丁目 黃金町一丁目
振替京城三七五番 長電話三八六番

營業品目
黑鉛精錬用唐箕
精米用唐箕
鑛山用具一式
鑛山用 製粉用 篩各種
精米用 製粉用 鑛山用 金鋼類各種
各種製造販賣
京屋商店
京城府北米倉町
長電話二七〇三
電略(キ)

カーバイト
アルコール
燒酎
鑛業用 硫酸
釜山辨天町
福榮商會
電話長三三九 振替京城二二九

朝鮮總督府法定消毒藥
アイゼル液
無比の防臭作用と殺虫力を併有す
京城 井上藥品部

時計及蓄音器卸商
開業創立明治二十八年
京城黃金町二丁目
喜多金光堂
電話一〇一五番 振替京城七八二

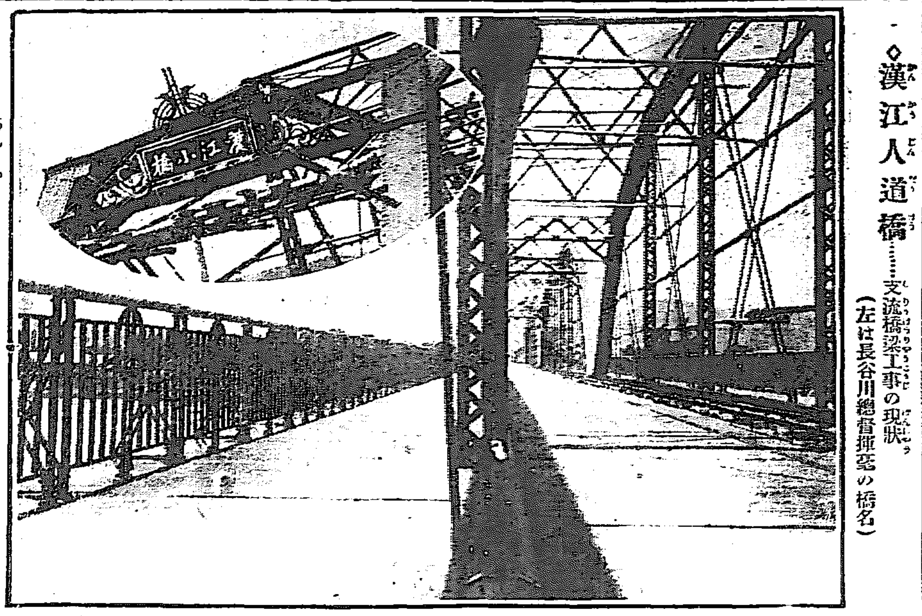
●興正寺住職遷化 宇治興正寺住職は十二日夜遷化されたり(大阪特電)

…萬嶺の水害は極めて…を呈し又た新民屯にも水害ありて氾濫せり此の上増水せば京奉鐵道は全く不通となるべし(大連特電)

…生じ通信の途絶えたり(東京特電)

●平南の模範農洞 平安南道に於ける模範農洞本年度の指導狀況…一月更に順川郡…上泉洞を加へたるを以て現在十九洞となれり之等…除豫防、堆肥の製造、米穀の調製と共に改良桑園及び稚蠶共同飼育所の設置、牝牛契の組織、乾草採取所設…

●共益社貨物專用船 京城共益社…株式會社共益社が同社貨物運送專用船として西島照丸…江中川造船所…別構造船の由にて釜山仁川間を航海…すべく同船は内國通運會社扱に屬し同船は貨物に其目的地迄回航…


◇漢江人道橋……支流橋梁工事の現狀(左は長谷川總督揮毫の橋名)

●竣工に近き漢江橋梁
＝總督の揮毫せる橋額＝
＝京城市大動脈の完成＝

總督府土木局直營の下に經費七十萬圓を投じ昨春以來工事を急ぎつゝある漢江人道橋は其の後工事豫定以上に進捗し本月末或は九月上旬竣工する筈である支流に架せる延長六百尺の漢江支流橋梁は既に歩道車道共に橋板全部を張り終り

□□目下橋側の主柱□□

の建設に著手し本流の橋梁も既に兩側の歩道は全部橋板を張り終り車道の橋板も中間を僅かに餘すばかりで其他は凡て工事を終つて居る本流の橋梁は橋桁七連全延長千四百餘尺である橋の幅員は四間半で中央が二間半の車道其の兩側に一間宛の歩道が設けられ中央の車道は凹形に歩道より低くなつて居る橋板は全部鴨綠江産の落葉松を用ひ

□□車道橋板の厚さ□□

二寸五分のものを二重にし歩道の橋板は厚さ二寸板を二重に敷いてある車道は電車は通られぬが砲車、自動車、馬車、俥、荷車、牛車等何んでも通行する事が能きる、歩道は右側を往き歩む事は道路の規定と同じである歩道の外側は高三尺四寸セセッション式の欄干で圍んで居る此の人道

□□橋梁竣工の曉は□□

鐵道橋と共に京城の動脈となり京仁及び京城以南各地との自動車徒歩連絡は元より京城市街が將來河を越えて南方に發展する前提となるべきものである猶該橋梁の架設と共に京城市民が稍もすれば其の生活を脅やかされつゝある水道淨水の缺乏を仁川水道から補ひを受ける事が能きる目下仁川では其の水道給水力の約五割の水量を要するばかりであるから來年度から車道橋板の下を通じ徑約一尺五寸の鐵管を以て鷺梁津仁川水道貯水池から

□□淨水の補給を受□□

ける事となつて居る竣工と共に橋梁兩側には電燈を點ずる筈にて本流橋梁に十六基支流橋梁に八基の電燈が建設されて居る内兩橋側四側の電燈は磨き花崗石にて高さ一丈數尺方二尺のセセッション式橋側主柱の上に五個の大ブラケットを取り付けて美觀を添へ支流と本流の橋梁間の延長二百二十一間の道路及び橋の前後の道路は砂礫をローラにて均し兩側にはアカシヤの並木を作りて

□□一段の風致を添□□

ふる事となつて居ると云ふ支流の橋梁の『漢江小橋』及び本流橋梁の『漢江橋』の各二面宛の橋の命名額は共に長谷川總督の揮毫せられたものである、通橋式の日取りは未だ定まつて居らぬが九月下旬か十月に入らば五日以内に擧行せらるゝ事になるであらう

◇新任關東都督府民政長官 宮尾舜治氏(十三日夜南大門驛にて)

●愛藏の書籍
手放すも妻子の爲と
＝モリソン博士の藏書を三十五萬圓で岩崎男が買ひ取つた顛末＝

岩崎小彌太男が今回モリソン博士の藏書を三萬五千磅即ち三十五萬圓で購入する事は既電の通りであるが扨て三十五萬圓の書籍は何の樣なものであるかと云ふと頗る大したものでモリソン博士が倫敦

◇タイムス通信員

として又た北京政府の顧問として支那に居る事實に二十餘年間の久しきに亘て苦心の末蒐集したものである博士は其の間常に歐米の書籍店とも聯絡を取つて居て苟くも東洋に關する著書の出版された毎には必ず代價を惜まず買集めたもので無論東洋に於ける古今の出版書籍も細心蒐集したから遂に今日の如き大部の藏書を有する樣になつたのである中には到底二冊と得られぬ樣な珍本も隨分多い東洋に關する雜誌のみでも第一號から全部揃つて居るものが十六種からもあり現在は大きな倉庫に充滿藏つて居る博士は

◇此の目錄を作る

事に非常に苦心し其れ丈けにも二千圓の費用を投じた相な如何に大部の書籍を藏して居るかと察せられる斯く苦心して折角蒐集した書籍を手放すに付ては博士も大分頭を惱めたらしい博士には三人の男子があり夫人は日頃之等に關して喧しく言つて居た樣であるから遂に決心して妻子の爲に金に代へる事となつたのだらうと博士が藏書を手放すと云ふ話を北京で耳にした正金銀行の小田切氏は之れは獨逸人の手に渡すのは洵に惜しい事と思つて此の事を岩崎男に通知すると

◇男も早速承知し

て今回愈々購入に決したが博士も此際米國人に賣れば未だ〳〵高く賣れるけれども東洋に關した書籍であるから出來得るならば日本人か支那人に賣りたいと希望して居たのであつたから契約も速に成立した譯である岩崎家では此の書籍を引取ると東京に圖書館を建てドクトルモリソン圖書館と名付け圖書全部を保留し篤學者に研究者の爲に公開するとの事である(東京通信)

●釋宗演師巡錫
鮮滿支那地方を

釋宗演師は九月中旬鮮滿支那地方を巡錫すべし(東京特電)

●鹿兒島線水害
家屋倒壞汽車不通

九州管理局鹿兒島線小川、有佐間線路は十二日夜來の豪雨のため十三日朝河水氾濫して線路上浸水五尺に及び猶堤崩壞の個所多く汽車不通となり家屋の損害も亦夥し(門司特電)

●郡守溺死す
水害狀況視察中

十一日慶南居昌郡地方出水し其の際居昌憲兵伍長池田久雄氏及び鮮人十二名行衛不明となりたることは既電の如くなるが其の後の報に據れば居昌郡守李璜永氏も管内水害狀況視察中遂に溺死したりと(晋州特電)

●夫婦發狂して
實子を殺す

姫路市神谷町三浦外吉(..)は妻テヨとの間に六名の子供ある身なるが夫婦とも發狂し毎日實子を毆打し遂に長男を撲り殺したる爲め拘引せらる(大阪特電)

●生活難に
壓され壓されて
奇拔で勝手な朝鮮人の願ひの筋
この頃多くなつた家出いろ〳〵

朝鮮の警察署や憲兵分隊及び分遣所では犯人の搜擧を初め一般の警察事務の外に處に依つては民事事件の訴訟調停や執達吏事務を取扱つてゐる、是等の外に隨分いろ〳〵と市民から願ひ出て來る願ひや屆けも受附け手數のかゝる面倒な事でも引受けて親切に取扱つてゐる、京畿道警務部保安係で調査した最近六箇月の種々な出願と處理事件數とを聞くに、其の總件數が四千九百五十件に達してゐる、而して其の

◇願ひ出の 筋から見て一寸毛色の異つてゐるのは家出人を搜索して下さいといふのが一番多く内地人から願ひ出たものが四百四十三件、朝鮮人側が七百九十八件ある、是等は生活難や家庭の不和又は精神に異狀を來したもの、不義理や犯罪の爲め等で居堪らずなつて無斷に姿を晦ましたものなどが多く、次は無斷ではないが所用の爲め他行した儘何程待つても

◇歸宅せず 音信も無いから所在を搜索して下さいと大略の目的地を定めて願ひ出たもので是れが朝鮮人側で八百五十七件、内地人側で六百三十二件あつた、其の他主に市街地で金貸しや下宿料又は飲食代等が溜り其の後行衛を晦ましたから見附つたら其の旨を説諭して下さい又は居所が判明してゐるから警察官憲の力で返金する樣取計らつて下さいといふのが内地人側に三百八十六件、朝鮮人側に四百二十七件程あつた、夫れから居所は判つてゐるが一向に歸つて來ないから歸宅する樣

◇説諭して 下さいといふのが内地人で二百四十七件、朝鮮人で百十六件あつた是等は大抵内地で失敗したから郷里に家族を殘して僅き朝鮮に渡つて一稼ぎした上歸國すべく決心して朝鮮に渡つて見れば案外就職口が無いばかりでなく歸郷する旅費さへも儲からず男一匹でありたが

…多いさい、ここで在る、更に願ひ出る場所から見れば朝鮮地内が最も多く、次は内地から願つて來るもので關東州や臺灣からも幾分あるが夫れに内地から無斷家出して朝鮮に渡つた形跡があるから

◇取押へ方 を願ひたいといふ中に女の數が男に比較して割合に多いのも珍らしい現象で是れは例には京城あたりでも發見されてゐるが多くは釜山で見附かつてゐる、關東州から願つて來るのは滿洲一圓を渡り歩いた婦女の内地に向けて逃れ込む樣子だから取押へて呉れさいふのが少くない爲めであるさうなが鮮には女の渡り者が少くない爲めであるさうな

ら辛つと其の日を糊口するさいふ破目に陷つた者であるさうな、夫れから内地人には殆ど無いことで

◇妻が他の 男と共に家出した、然し婚姻の契約は取結んだけれど女が應じないとか又は家人が虐待するから離婚したいといふやうな婚姻に關する家庭の事情を官憲に持ち出す鮮人が多い朝鮮人側には二百二十七件ばかりあつた、又た閑元に老人や家族を置きながら朝鮮で收入はあつて金を送つて來ないから其の旨を説諭して下さいといふのが殆ど内地人に多く夫れが九十七件ばかりであつた、曾つて元臨時土地調査局に勤めてゐた某判任官の如きは組合や何かで六百餘圓といふ纏まつた金が一時に手に入つたので早速に遊蕩迎賀し國には老父などを始め家族も居りながら一文だに送らず其の日も暮し兼ねる有樣で六百圓の金に扶養料の送金方を嘆願の手に願ひ出た際には殘金は一錢も無かつたといふ實例もあつた、夫れから地主が地方の小作人に對し小作料を送るやうに取計つて下さいなどと願ひ出た

◇朝鮮人が 二百名ばかりもあつた、其の他雙方で契約した事を片方が履行せぬからお願ひさいふもの物品や現金を貸したが、期日になつても返さぬといふやうなこと迄願ひ出るものもあり、官憲でもなか〳〵捨て餘して居る程で殊に僅かの事でも官憲を利用して自己の便宜を圖らうとする者は朝鮮人の方になか〳〵多い

●毛髪を賣て麵麭に代んとす
自己の乳兒の死を喜ぶ哀れなる母よ
困窮の極に達したワルソーの慘狀

地方會議員が保障せる一報朝ワルソーより來れるが其れには聽く可き困窮を示し居れり其一部に曰く『死と飢餓とは到る處の市街、停車場、收容所に於て見受けらる『母は自己の乳兒の死を喜び且つ瀕死の子女の爲め麵麭を求めんとして娘の毛髪を賣る』と(紐育電報)

●宮川五段入京 講道館流五段宮川一貫氏は滿鮮視察の爲め十二日夜入京十三日午後六時半より講道館柔道研究會本町署管内に於て柔道に關する講演を爲したり

運動會

●遠征庭球團より

▲第一報 滿洲遠征庭球團一行は十日午前十時仁川出發後黄海の風雨巨濤を戰ひ十一日午後三時無事芝罘に著し日本領事館を往訪敬意を表したる後市街を巡覽し同日午後六時芝罘出帆大連に向ひたるが一行元氣旺盛なり(十一日午後四時五十五分芝罘發電)

▲第二報 庭球團一行は今十二日午前四時途中航海無事大連に到著同七時上陸し滿鐵庭球部幹部の盛んなる歡迎を受け若狹町ミサゴ館に投宿せるが昨夜波穩かにして海上砥の如く一行元氣頗る旺盛なり一行は本日休養明十三日午後三時北公園コートに於て大連軍と決戰の筈なり茲に選手一同は貴紙上を通じて後援を給はりたる各位に對し深厚なる敬意を表す(十二日午前九時三十分大連發電)

最新刊
◎朝鮮畜産例規 吉田雄次郎 七〇
◎王陽明研究 桑原天泉 一、〇〇
◎新旬作例書翰大辭典 窪野知三郎 特 九五
◎實驗果樹園藝上 縮刷改訂 宮操布雨 四、〇〇
◎歌集白梅集 若山牧水 若山喜志子 七五
◎新田盟講評 定價 八五

天然生活法
◎曆講話 小澤吉之郞 一、〇〇
◎滿蒙現勢圖 南滿洲社 六、五〇
◎日鮮警察用語 丁李風 五五
◎學生及青年之修養 農村作文軌範 中村加直 六五
◎南搽文雄著 定價 一、二〇

進むべき道
◎菜根十二ヶ月 山本久助 五〇
◎朝鮮語法及會話書 總督府編 二二
◎舊幕府御秘藏甚戰 本田林泰 八五

大阪屋號書店
京城本町一丁目電話六○番・振替京城二五七

質 大口歡迎
京城黄金町長橋町入 電話二九一六番
田村質店
商品擔保便利取扱

りん病 請合藥
ばい毒 請合藥
京城南大門外 大阪ドラッグ會鮮總本部 停車場通
細詳ハ本月十日ノ本紙ヲ御覽・アリ法意

心臟脚氣 特効藥
ペリベチン
定價 10.30.50.
▲心臟病 ▲脚氣 ▲水腫 ▲動悸其他
東京市橋區 富山藥品株式會社
各地特約店及藥店にあり
特約店 京城府太平通二丁目三五 キムラ藥房

千倍に釋したるアイセルを塵埃溜や下水に撒けば蠅や蚊の發生するとこ斷じてなし

ビールの眞味を解する方は擧つて本品を愛飲せらる
サクラビール

豫告
本年四月以來滿洲漫遊中之處來る九月上旬より再び京城に於て診療に從事可仕候也
滿洲奉天出張中
久枝肛門病專門醫院

村井弦齋先生命名實驗證明
かつけ 尾崎糠精
全國藥店に有
販賣元 東京中澁谷町 尾崎兄弟商會

優等清酒
福岡縣三井郡山川村 醸造元 富安本店
京城永樂町二丁目 發賣元 富安京城支店 電話…

大好評滿員續き
江戸生粹いさみ會 滑稽喜劇 海老一座一替藝題
八月十四日
回舞臺定 藝曲 一幕
回喜劇 入相の鐘 一場
回新悲喜劇 後の勝利 三場
回茶ばくし 三人滑稽 一幕
愈々數日にて閉場此際御見落しなく觀覽を乞ふ
京城 壽座

魚釣具及投網卸賣小賣
京城永樂町二丁目 吉備商會
電話三一四番 振替京城四三二八番
□御申越し次第定價表進呈 □遊船御案内

花匠（八二）

松田竹の人作

お豐の無禮な言葉には、京子は腕の中が煮え返へるやうに爲つて
『何んて失禮なことを言ふの。一端主人とした妾に向つて、餘り酷い言ひ方だわ。』と睨むと、お豐は阿婆擢れの本性を現はして
『世の中にお前さん程の莫迦はありやしない、眞個に呆れッちやッてものも言へない。』
京子は、淫賣婦に爲るだらうの、又は莫迦だ抔、あらん限りの、侮辱の言葉を浴びせかけられては、口惜しさに唇を噛みつゝ
『お前のやうなものに、口を利くのも要はないから、早く此處を出て往つておくれ、最う顔を見るのも厭らしくッてならない。』
『出て往けと言はなくッても、何時迄此處に居るもんですか。』
『今まで欺されて、親切で主思ひだと思つてゐたのが口惜しい。』
『親切者でもあるし、主思ひでもあるぢやありませんか、氣樂に暮せるやうに爲て遣らうと、種々心配してゐたのですもの……、妾の親切な心を思はないで、欺されてゐたもないもんだ。親切に田淵さんから二百圓取寄せたのに、其二百圓が要らないなんて、豪さうなことを言つてさ、痩我慢を言はないで、器用に二百圓取つて置けば可いのに、今に三度の御飯も喰べられなくなるのは極つてゐる。此二百圓が要らなけりや、田淵さんは、それだけ御儲うかりに爲るんだからね。』

お豐は言ひたい法題のことを言ひ、二百圓束を取り上げると、突ッと起ち上り、つんけんして次の間へ往くと、荷物を整理けつゝ、東京へ歸る支度を爲始めた。
京子はお豐が、田淵の犬であつたことが、今初めて分り、自分は什麼して恁う欺され易いのかと、自分で自分の身が恨めしく爲つて來た。
彌々恁う爲つては、決心してゐた通り、今日から此處を引き拂ふて、自活の道を立てなければならないと思つた。
恁うは思つたが、無意識に起ち上り、縁から庭へ降りると、澄み切つた月の光りが、雪のやうに明かで、露を含んだ庭の芝が、毛氈でも敷いたやうであつた。
吾れを忘れて、庭口からふらりと逗子の砂濱へと出た。
お豐の侮辱を受け、口惜しいと思つて充奮した顔は青く、眼は吊り上つて、何んとなく凄愴であつた。
海の沖の方は、淡い霧がかゝつて薄絹でも張つたやう、そして砂濱には毎もに變らず、波が磯の聲を揚しつゝ、寄せては返し、返しては寄せてゐた。
京子は惘然として佇みつゝ、凝乎と海面を見詰めたが、何んとなく世の中が厭やに爲つて來て、これから自活の道を立てやうとの健氣な心は波と共に碎けて、死んで了ひたいやうな氣が起つた。
今、月の光りの映つてゐる逗子の海は、何んといふ清さだらう。死ぬならば、此清い逗子の海こそ、甚麼に心持よく死ねるだらう。
死ぬとして、屍骸は濱へ打ち寄せられないやうに爲たい。若しも屍骸が、お豐の目にでも著いたなら、それ見ろと、慿度に笑はれるかも知れないし、お豐の口から其事が、直ぐに田淵の耳へ傳へられて、田淵にも笑はれやう、だから屍骸は、沖の方へ方へと流されて、魚類の餌食と爲るやうに爲たい。

書画用 紙画絹 京染呉服商 たきや出張店 京城永樂町 電話一二九六番

□活巴會第三回ノ一 [illegible]

新刊紹介

▲寫眞タイムス（一〇八）[illegible]
▲世界公論（八月號）一部十七錢東京小石川[illegible]
▲月刊樂譜（六ノ八）一部八錢東京銀座四ノ[illegible]四山野樂器店
▲學校教育（四六）一部十八錢東京本石町三[illegible]寶文館
▲處女文壇（一ノ四）一部十五錢東京神田表神保町三共社
▲スコブル（九）[illegible]大阪[illegible]新聞を起して[illegible]東京にてスコブルなる一雜誌を發行したるが[illegible]刊行以來[illegible]新レコードを造りたるが今回の『スコブル』は大[illegible]熱心に編纂せるものなれば[illegible]（一部東京神田駿河臺[illegible]町）
▲拓殖所報（八月號）一部二十五錢東京々橋[illegible]
▲海紅（八月號）一部二十四錢東京下谷[illegible]
▲大陸（四九）一部廿錢大連浪速町一八共社

皮膚科 皮膚病 黴毒病 膀胱病 生殖器 機能障碍 入院隨意（診察夜九時迄） 日曜祭日午後二時迄 佐藤醫院 京城明治町二丁目（元町）（電話一一七三番）

眞夏の京より

大阪支局 青霞生

◇京の夏は今が最中である。大阪に比して唯心持だけが涼しいばかり、實際の温度は絶えず大阪より一度二三分ぐらい高い。暑い〳〵と云ふも半分は神經である。商工業の盛な大阪は市内到る處に慘々たる生存活動の渦が卷いて見るからに暑い。京都は市内電車が一里程も軌道ばかりを見せて偶々來る電車はコクリ〳〵居眠ながら歩いてゐる。餘り暑い氣はせぬ。其代り眠くなる。
◇そうした電車の從業員にも目下の酷烈な生活難は雅なと迫つて來て流行の罷業氣分が大分濃厚になりかけたが、市當局が要求を容れ多少増給する事になつて無事にガタリ〳〵騒馬が略ぐやうに走つてゐる。
◇此の[illegible]氣分に滿たされた京都も事局の影響は可なり顯著に現れてゐる。市内の工場を調べると、東洋蓄音機のクロヴィチー、レコード、多田石鹸のビスクコンポリシヨン、[illegible]の電鐵化學機、[illegible]製作所、京都陶磁器の[illegible]、用途製鋼の[illegible]、[illegible]錢及び[illegible]食子ミカ[illegible]、山本義三工場のプレス鋼[illegible]した重なる生産である。
◇郡部では[illegible]宇治に大澤の絹紡績事業、本精錬の過酸化曹達、[illegible]野の[illegible]グモン發賣品、[illegible]の工業製[illegible]、帝國電化の[illegible]、[illegible]副業[illegible]、[illegible]加里、乙訓には日本[illegible]製造合資、紀伊郡には松風陶器の化學用磁器、[illegible]野衛のプロ[illegible]、[illegible]合資の鹽酸加里、[illegible]化學の[illegible]リン[illegible]、[illegible]の硝子、[illegible]、伏見電氣化學の鹽酸加里、小泉[illegible]の[illegible]紙、醍醐化學工業の染工業用[illegible]品、永井工業の石版インキ、伊[illegible]行の滑石製粉、京都[illegible]水硫酸のそれ等が主要なる生産工場で可なり著い氣分を醸らして活躍してゐる。
◇宇治電氣工業の鹽酸加里過酸化曹達、天田郡の安岡足立はテール油中郡の松川はテーパンテピンなど何れも戰亂以來事局が產んだ化學的工業の發展と見るべきであるが、いつそ西は神戸東は京都まで工業地となつて續いて了へば何處が著い彼處が凉いもないふてはゐられぬ。名所見物も眼が減つては駄目であるから、京阪神一帯となつて工業でドンと腹をふくらせる事である。
◇今年の前の祇園會順行には占出山が第四番目の籤となつたので一般の産が輕いと[illegible]的迷信の噂が[illegible]つてゐる、餘り輕くてピヨコ〳〵産れ過ぎると生活難の激しい折柄下層社會は難産より倫苦しい四苦八苦を續けねばならぬから、占出山の神功皇后樣も目下の狀況に鑑みお手加減を願はねばなるまい。
◇大阪より暑い京も夜になれば背い東山を瓦つてさら〳〵と流れて來る涼しい風に甦る。鴨川沿ひの料亭旅館貸座敷は悉く磧に床を架出した。冷しサイダーに渇きを醫するは[illegible]の鴨川畔に限るのである。

商況

下關期米特電 [illegible]

大阪期米特電
後場當限▲寄付二十二圓二十七錢▲中限寄付二十二圓七十九錢▲先限寄付二十二圓七十六錢

大阪三品特電 [illegible]

大阪株式特電 [illegible]

新株 三六六.〇〇 同 [illegible] 常島米株 二八七.〇〇 東京株式 [illegible] 大阪株式 三六〇.〇〇

仁川期米 [illegible]

▲依然强硬 六錢と安入itに接し二十錢と押したるも依然[illegible] [illegible]

▲納文稍少す は當限の依拓りと同時に安値買建てんとの[illegible]と前日の降雨にて各地に出水說あるで後場[illegible]又暴風警報出たる等にて[illegible]

十二日の十月限 [illegible]

實買取組高
八月限 一萬四千三百石
九月限 二萬五千五百五十石
十月限 二萬九千六百五十石

高潔 最上の品質
拔群 無類の廉價
此の二は富嶽の如く泰然として變らない
品質本位 花王石鹸の特有であります！

化學と經濟との兩方面より見て、花王石鹸は最も優れたる日常化粧衛生用石鹸として、帝國陸海軍、帝國大學、赤十字病院、慈惠病院、鐵道院、傳染病研究所等の採用品となり一般社會に於て最も久しく厚く多くの信用あることは何人にも認められて居ます。